

大阪薬科大学報

Osaka University of Pharmaceutical Sciences



2015年(平成27年)1月30日発行

70

CONTENTS

学長就任挨拶	就任の挨拶	学長 政田 幹夫..... 3
創立110周年	創立110周年記念事業を終えて	4
	式次第.....4	
	記念講演（大阪府立成人病センター名誉総長 堀 正二先生）.....5	
	記念式典.....5 祝賀会.....6 時計塔除幕式.....6	
	創立110周年記念誌の発行にあたって.....6	
	創立110周年記念式典式辞（浜岡純治理事長）.....7	
在学生へのメッセージ	正しい努力をしよう！	教務部長 教授 浦田 秀仁..... 8
	学生生活：最近のトピックス	学生部長 教授 三野 芳紀..... 9
	「知のひろば」案内 2014	図書館長 教授 高岡 昌徳.....10
	キャリアサポート課への誘い	キャリアサポート部長 教授 藤本 陽子.....11
	私の学生時代と在学生の皆さんへ	有機薬化学研究室 教授 春沢 信哉.....12
特待奨学生表彰	第10回特待奨学生表彰	学生部長 教授 三野 芳紀.....13
大薬祭2014	「スマイル」—第49回大薬祭に思う—	学生部長 教授 三野 芳紀.....14
	第49回大薬祭	
	「スマイル～Happiness Comes Over～」を終えて	大薬祭実行委員長 照屋 亮.....16
カリキュラム改訂	平成27年度カリキュラム改訂	
	—薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂を受けて—	カリキュラム委員長 教授 辻坊 裕.....17
FD 活動	FD 活動の現状と課題	FD 委員長 辻坊 裕.....18
公開教育講座	平成26年度大阪薬科大学公開教育講座	
	とサテライトセミナーを終えて	公開教育講座委員長 教授 松村 人志.....20
市民講座	平成26年度市民講座	市民講座委員長 教授 戸塚 裕一.....22
三大学医工薬連環科学教育研究機構	三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況（その7）	准教授（特任） 銭田 晃一.....24
附属施設の紹介	図書館	図書館長 教授 高岡 昌徳.....26
学生相談室	学生相談室だより	学生相談室相談員 小田 佳子.....27
事務局だより	総務課.....28 施設課.....32	キャリアサポート課.....33 教務課.....33
	学生課.....34 入試課.....37	図書・情報課.....38
大学・同窓会共催 学術講演会	第3回大阪薬科大学学術講演会 in 東京（お知らせ）	39
薬用植物の紹介	トウガラシ（ナス科）	薬用植物園長 教授 谷口 雅彦...巻末



本学は公益財団法人大学基準協会による2011（平成23）年度認証評価の結果、2012（平成24）年3月9日付で同協会の定める大学基準に適合しているとの認定を受けました。

認定期間：2012（平成24）年4月1日より
2019（平成31）年3月31日



玄関灯（旧松原校舎）— 本学資料展示室所蔵 —

昭和7（1932）年、帝国女子薬学専門学校が旧松原校舎に新築落成された際に
玄関両脇壁に一对で設置された。



就任の挨拶

学 長 政田 幹夫

平成 27 年 1 月 1 日付で大阪薬科大学学長として着任しました政田幹夫です。110 年の歴史を誇る伝統ある本学の学長を拝命いたしましたことは誠に光栄であります。

私は、昭和 48 年に京都大学薬学部を卒業し、大学院博士課程を経た後、京都大学病院薬剤部で臨床現場を 1 年間経験、その後、城西大学・摂南大学薬学部で薬剤学の講師・准教授として約 7 年間薬学教育・研究に従事し、再び京都大学胸部疾患研究所附属病院薬剤部に薬剤部長として 2 年間、その後、福井大学医学部附属病院教授・薬剤部長として約 24 年間臨床現場で医学・薬学教育、研究、薬剤部業務運営に尽くしてきました。薬学部における教育・研究、医学部・大学病院における臨床・教育・研究を経験・実践した数少ない教員の一人として、大きく変遷しようとしている現在の薬学教育の指揮を振れることを楽しみにしていますとともに、その重大な責務を考えると身の引き締まる思いであります。

薬学教育・薬剤師教育にも 6 年制が導入され、約 10 年が経ち臨床現場をはじめ医薬関連産業も大きく変貌しようとしています。特に、薬剤師の係る業務に関しては、世界標準即ち 1240 年に神聖ローマ帝国フリードリッヒ 2 世により制定された「薬剤師憲章」に基づく医と薬の分離、“医には処方権”を“薬には監査権”を与えた医薬分業を我が国においても現実のものとするため、遅ればせながら薬学教育に臨床現場での実習が必須として取り入れられました。薬剤師として“患者さんのために尽くす”には“医師により患者さんに処方された「医薬品」に対して、監査権を有す

る薬剤師として医師と十分議論し得る能力を有する”ことが必要です。これからの薬学・薬剤師教育としては、従来からの「医薬品」に関する知識は勿論のこと、医薬品を必要とする本来の「病気」のこと、医薬品を投与される患者さん自身の「病態」のことも含め臨床現場を理解することなくして薬学・薬剤師は成り立ちません。

薬学教育に 6 年制が導入され実務実習が必須化された理由の一つには、医薬品研究・医薬品開発・医薬品営業・医療薬事行政・病院薬剤師・薬局薬剤師等全ての医薬関連産業に係わる薬学部の卒業生には少なくとも臨床現場を経験し、臨床現場を理解した上で「医薬品」とは「医療」とは何かを考えて社会に還元して欲しいからです。

従来の薬学基礎・専門科目のみでも薬学部学生諸君にとっては大変な勉強量で難しい学問であると思います。さらに臨床科目が増え、人の命に係わる重大な学問を修めているのだと言うことを念頭に置いて日々勉学に勤しんでいただきたいと思います。

これからの医療ならびに福祉制度の在り方を見据え、薬学教育における薬剤師の基本的資質としての心構えは、それぞれの置かれた環境により具体的な役割は異なるものの、次のように示されています。「薬の専門家として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識を持ち、薬剤師の義務および法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感および倫理観を有する」。このことを一人ひとりの薬学生・薬学出身者が自覚し、社会に貢献できるよう行動を起こすことが必要です。

私の好きな言葉に、医療現場で、特に EBM (Evidence-Based Medicine) の世界で用いられている“doing the right things, and doing things right”(正しいことを行う、それを正しく行う)という一文があります。これは EBM の世界のみでなく、すべての世の中に通じることであり、私もこの言葉を大切に生きていきたいと思っていますし、皆様方にもぜひ心に留めておいていただきたいと思います。

教職員・学生諸君が一丸となって 110 年の歴史に負けない、素晴らしい大阪薬科大学を創りあげていきましょう。どうぞよろしくお願いいたします。



創立 110 周年記念事業を終えて

大阪薬科大学は、明治 37 年 5 月 9 日に創立された大阪道修薬学校を前身としており、本年、創立 110 周年を迎えました。

創立 110 周年記念事業につきましては、平成 25 年 1 月に理事長を委員長とする創立 110 周年記念事業準備委員会を設置し、同準備委員会を中心に準備を進めてまいりました。

このたび、創立 110 周年記念講演、記念式典及び祝賀会を平成 26 年 11 月 9 日（日）、本学講堂及び学生ラウンジにおいて挙行了しましたので、ここにその概要を報告いたします。

ご臨席いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。

～ 式 次 第 ～

記念講演	大阪薬科大学 講堂 10:30～11:30	
演 題	「医療文化と創薬」	
講 師	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター 名誉総長 堀 正二	
	座長：大阪薬科大学循環病態治療学研究室 教授 林 哲也	
記念式典	大阪薬科大学 講堂 11:45～12:15	
式 辞	学校法人大阪薬科大学 理事長	浜岡 純治
挨拶	大阪薬科大学 学長事務取扱	楠瀬 健昭
祝 辞	高槻市長 一般社団法人日本私立薬科大学協会 会長	濱田 剛史 井上 圭三
表 彰	学校法人大阪薬科大学 前監事	露口 佳彦
学歌斉唱	大阪薬科大学コーラス部	
祝 賀 会	大阪薬科大学 学生ラウンジ 12:30～14:00	
挨拶	学校法人大阪薬科大学 理事長	浜岡 純治
祝 辞	一般社団法人大阪府薬剤師会 会長	藤垣 哲彦
乾 杯	大阪薬科大学同窓会 会長	武枝 敏之
祝 宴		
閉会のことば	大阪薬科大学 学長事務取扱	楠瀬 健昭 (敬称略)



記念講演

記念講演座長

学術交流推進ワーキンググループ委員長 林 哲也



堀 正二先生 プロフィール

1970年 大阪大学医学部卒業
 1997年 大阪大学医学部教授
 (内科学第一講座)
 1999年 大阪大学大学院教授
 (病態情報内科学)
 2005年 大阪大学大学院教授
 (循環器内科学)
 2008年 大阪府立成人病センター総長
 2014年 大阪府立成人病センター
 名誉総長
 大阪薬科大学招へい教授

平成 26 年 11 月 9 日 (日)、大阪薬科大学講堂にて開催されました創立 110 周年記念講演の講師は、大阪府立成人病センター名誉総長の堀正二先生にお願いしました。堀先生は、大阪大学大学院循環器内科学教授を経て、昨年まで大阪府立成人病センター総長として第一線での診療ならびに教育・研究に尽力されました。多くの受賞歴をお持ちですが、特筆すべきは International Society for Heart Research (ISHR) 学会における The Peter Harris Distinguished Scientist Award 2013 を受賞されたことです。

ご講演は、「医療文化と創薬」をテーマに、医療環境の変化とそれに応じて求められる薬のあり方について、古代から中世、現代、そして 30 年後に予想される個別化医療にいたるまで、当時の医療技術の紹介から現在の大規模臨床試験における問題点ならびにメガデータの活用に至るまで幅広い内容をわかりやすく解説されました。

薬の起源は、太古、帝王であった『神農』が百草をなめて医薬の法を教えたものとされていますが、洋の東西を問わず、苦痛の緩和と不老不死が薬の役割として求められてきました。古代エジプトではミイラの粉末が薬として珍重され、やがて日本にも輸入されたという事実があります。しかしながら、薬物有効成分の抽出や動物実験による薬効評価が行われるのは 20 世紀に入ってからであり、科学的な歴史は浅いと言えます。近年、基礎研究の充実や大規模臨床試験によって数多くのガイドラインが作成されていますが、その一方で将来的には個別化医療についても考える必要があります。ガイドラインはあくまでもガイドラインであり、過度に縛られることのないよう留意したいものです。

講演終了後、国立循環器病研究センター名誉総長の川島康生先生 (本法人元理事長) をはじめ多くの先生から、素晴らしいご講演であったとお言葉があり、我々教職員一同にとっても大変有意義な記念講演でありました。

末筆になりましたが、ご講演頂いた堀先生に厚く御礼申し上げるとともに、本学の招へい教授として引き続きご指導くださいますようお願い致します。また、記念講演開催にご協力頂きました関係各位に深く感謝申し上げます。

記念式典

平成 26 年 11 月 9 日 (日) 午前 11 時 45 分より、本学講堂において記念講演に引き続き、記念式典を挙行了しました。

浜岡純治理事長の式辞 (全文を 7 頁に掲載)、楠瀬健昭学長事務取扱の挨拶の後、濱田剛史高槻市長と井上圭三一般社団法人日本私立薬科大学協会会長より祝辞を頂戴しました。

濱田高槻市長からは、「大学が開設されたことにより、文教都市としてのイメージが向上し風格と活力あるまちづくりが大きく進展している。また、本学附属薬局が市民の健康維持・増進に重要な役割を担っている。」などのお言葉を賜りました。

井上日本私立薬科大学協会会長からは、「大阪薬科大学は日本の薬学 57 大学の牽引役として期待している。また、薬学教育新制度の 4 年制の問題が浮上した際、本学が誠実に真摯に薬学教育を行っていることに薬学関係者一同が感銘を受け、さらに薬学教育 6 年制の実施や、実務実習に関して、本学関係者の多大な尽力があった。」などのお言葉を頂戴しました。

続いて、本学の監事として約 12 年間に亘り本法人の運営と発展に貢献された露口佳彦氏に対して表彰を行い、表彰状と記念品を贈呈しました。

記念式典は、本学コーラス部による学歌斉唱で閉会となりました。



祝 賀 会



会場を隣の学生ラウンジへ移し、祝賀会が開催されました。

冒頭の理事長挨拶の後、一般社団法人大阪府薬剤師会の藤垣哲彦会長から祝辞を賜りました。藤垣会長は、「薬事法が改正され、医薬分業が進められ、国も国民の健康づくりに力を入れるようになっていく。薬剤師が昔の姿としての『まちの科学者』としてこれを担っていかねばならない中で、大阪薬科大学には、調剤に偏ることのない、幅広い知識を持った薬剤師を養成して欲しい。」と述べられました。その後、同窓会長武枝敏之様より、乾杯のご発声があり、和やかに歓談が行われました。



祝賀会終了時には、晴れ間が出てきましたが、当日は、朝からあいにくの雨となり、お足元の悪い中、ご来賓及び同窓生には遠方より多数お越しいただき、多くのお祝いのお言葉を頂戴し誠にありがとうございました。また、無事に本事業を終えることができましたのも、本学関係者のご尽力の賜と存じます。

本学は、次の 50 年、100 年に向けて、日々邁進していく所存ですので、今後とも、皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



時計塔除幕式

日 時 平成26年11月9日(日)10:00~10:15
式 場 大阪薬科大学 中庭 (キャンパス広場)



大阪薬科大学創立110周年記念事業の一環として、中庭のキャンパス広場に、「時計塔」を設置しました。

記念式典開催に

先立ち、午前10時より本学中庭にて、理事長・理事・監事、同窓会役員、記念事業準備委員会委員等の関係者が出席して、除幕式を執り行いました。時計塔に刻印された創立110周年記念公式ロゴマークに込められている、過去、現在、未来に亘って躍動し、新しい時代を切り拓く本学のシンボルとして、いつまでも時を刻みつつ我々を見守ってくれることを一同が祈念しました。

同窓会のご提案で時計塔の建設計画されたこともあり、同窓会・本学教職員から寄付金を募りました。また、法人役員やその他からのご寄付も含め、9,840,652円(平成26年12月12日現在)のご寄付を賜り、全額をこの時計塔建設に充てさせていただきました。時計塔建設費用は、本学創立110周年記念事業費からの補填を合わせ総額約1,500万円となりましたことを併せて報告させていただきます。

最後になりましたが、募金事業にご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。

創立110周年記念誌の発行にあたって

今から10年前の2004年に挙行された大阪薬科大学創立100周年記念行事では、100年という大きな節目に当たるため、盛大に記念行事を執り行い、記念誌も創立からの歩みを225ページにわたって綴った100年の歴史の集大成となるものを発行しました。

それから10年後の2014年、本学は創立110周年を迎えました。110という数字は中途半端な感がありますが、一つの節目であることに変わりはありません。しかも、10年の間には、薬学教育が6年制へと移行し、それに伴うカリキュラム変更、施設・設備の充実等、非常に中身の濃い激動の10年でありました。

今回の記念誌は、その激動の10年間にスポットを当て、主だった出来事をピックアップし、「手に取ってもらいやすい、グラフィックな、印象に残るもの」をコンセプトに、絵本チックなデザイン(装丁)にしてみました。

直近の10年間にスポットを当てたとはいえ、編纂にあたっては、本学の長い歴史を振り返ることは不可欠であり、作業の過程で110年という歴史の重みを感じずにはいられませんでした。記念誌の中には、創立から110年までの足跡を簡単な年表にまとめたページがあります。ぜひ、その年表を辿りながら、その時代に大阪薬科大学に関わった方々に思いを馳せてみてください。学生の皆さんには、今日の大阪薬科大学が創始者の方々の並々ならぬご尽力、卒業生の方々が築いて来た礎のもとにあるのだということを知ってもらい、この伝統ある大阪薬科大学で学んでいるということを誇りに思ってもらいたいと思います。

歴史の中から伝統は生まれるといえます。これまでの伝統を継承しつつ、これからの新しい歴史を築き、そこから生まれた伝統を10年、20年、さらには100年先に繋げていって欲しいと切に願います。

この記念誌が学生の皆さんの大阪薬科大学の歴史に触れる機縁になってもらえれば幸いです。

(創立110周年記念誌編纂委員 三角 智津)

大阪薬科大学創立 110 周年記念式典式辞

理事長 浜岡 純治



本日ここに、大阪薬科大学創立 110 周年記念式典を開催するに当たり、高槻市、日本私立薬科大学協会、関係大学、病院、薬剤師会の皆様をはじめ多数の

ご来賓の方々にご多忙の中をご臨席賜りましたこと、衷心より御礼申し上げます。また、本学の発展にご尽力くださいました本法人の元役員、本学の名誉教授、教職員 OB や同窓会の皆様方にもご列席を賜り、心より感謝申し上げます。

本学は、明治 37 年に当時我が国における和漢薬取扱いの中心であった薬の町、道修町に、「薬種商にも薬剤師資格を」という時代の要請から、薬業の有力者のご尽力を得て創立された大阪道修薬学校がその母体であります。いまま道修町の塩野義製薬本社ビル前の植栽の一角にある「大阪薬科大学発祥の地」の記念碑にそのことが刻まれております。

その後、本学は、幾多の変遷を経て、帝国女子薬学専門学校、帝国薬学専門学校として我が国の薬学教育に貢献し、戦後の学制改革により昭和 25 年に大阪薬科大学として新たなスタートを切りました。昭和 50 年には大学院修士課程、昭和 59 年には大学院博士課程が設置され、名実共に我が国における代表的な大学院併置の私立薬科大学として認知されるにいたしました。平成 8 年には、60 数年の長きにわたり松原市にありましたキャンパスを現在の高槻市奈佐原の地に移し、恵まれた環境のもとに施設・設備を一新いたしました。本学の卒業生は、累計で約 2 万人となり、大学、病院、薬局や製薬会社、行政機関などでご活躍されてきました。これが 110 年の歴史と伝統を持つ本学の最大の強みであります。

近年、我が国の医療保険制度は制度疲労とも言える状況にあり、その改革のための対策が次々と講じられているところですが、医療の一端を担う薬学を取り巻く情勢も、それに伴って目まぐるしく変化しております。医薬分業の進展はその端緒であり、医療の高度化とともに、薬剤師を取り巻く環境も変わりつつあり、基礎薬学と臨床薬学の専門知識に裏打ちされた実戦力となる薬剤師の育成が社会から強く求められております。

本学では、高度な薬剤師養成という観点から大学附属薬局を平成 11 年に設置し、平成 14 年には大学院に臨床薬学コースを設けるなど、臨床医療薬学教育の強

化を図り、薬学教育 6 年制導入に先立って、医療薬学教育に重点を置いた独自のカリキュラムを編成し、様々な分野で活躍できる優秀な人材の育成に努めてまいりました。

薬学教育が 6 年制となった際には、6 年制の薬学科と 4 年制の薬科学科を併設して、薬剤師、薬学教育研究者の双方の育成を目指す取り組みを行ってまいりました。また、本年 7 月には今年度を起点とする中期 6 か年計画を策定いたしました。その中では、教育・研究におけるガバナンスの強化、薬学と医学の密接な連携による先進的な薬学教育・研究の推進、基礎薬学のさらなる強化による薬学教育・研究の高度化、グローバル化の推進、卒後教育の推進、地域社会への貢献という 6 項目を重点目標に掲げており、今後はその実現に向けて邁進していく所存であります。

今回、110 周年を迎えるに当たり、記念事業として中庭に時計塔を設置いたしました。いま皆様がいらっしゃるこの D 棟を平成 21 年 2 月に建設した際に、それまで中庭にあった時計塔が撤去されましたが、この時計塔を新たな姿で生まれ変わらせて、本日、除幕式を挙行いたしました。

加えまして、100 周年を記念して開始しました海外との学術交流事業や、本学独自の奨学金制度の事業も着実に推進しております。さらに、病院等との学術交流協定締結による研究活動の推進や近隣薬剤師会との地域交流協定締結による地域社会への貢献などにつきましても、着実に成果を上げてきております。本日の式典に際して、これらの事業について報告できますことは大きな喜びであり、関係各位に深く感謝の意を表する次第であります。

さて、近年における薬科大学あるいは薬学部を取り巻く環境は、少子化の急速な進行や大学間競争の激化など大変に厳しいものがあります。そうした中、本学は、21 世紀の医療の一端を担うことのできる高い倫理観と幅広い視野をもった“創造性豊かな研究者”“人間性豊かな薬剤師”の育成を目標として、110 年の伝統に甘んじることなく、日々改革に取り組んでいく所存であります。

最後に、本学は次なる 50 年、100 年に向けての第一歩を踏み出すに当たり、教職員一同が決意を新たに一致団結してさらなる発展に努めてまいりますので、関係各位におかれましては、引き続きご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

正しい努力をしよう！

教務部長 教授 浦田 秀仁

努力は裏切らない？

「努力は裏切らない」という言葉がある。本当だろうか。私は授業で有機化学を担当しているが、学内試験が終わるたびに「私は毎回復習もして、試験前も頑張って勉強したのに不合格になった。」と訴える学生がいる。このような学生は「努力しても報われない。」と感じているのだと思う。本当に頑張ったの？と聞くと、バツが悪そうにする学生と、胸を張って「頑張りました！」という学生がいる。後者の学生何人かにどのように勉強したかを聞いたことがある。すると、「先生が仰ったように復習ノートを作って（私は初回の授業で、授業の受け方、復習の仕方を説明し、講義の内容をまとめた復習ノートを作ることを奨めている。）勉強しました。」と言う学生がいる。ならばと、まとめたという復習ノートを何人かに見せてもらった。確かに講義で説明した内容が書かれている。それを見ながら、「こういう努力をしているにもかかわらず、なぜこの学生は結果が残せないのだろう？」と不思議に思いながら、尋ねてみた。

私 ここでは、なぜ電子はこう動くの？

学生 「……。」

私 じゃあ、ここは？

学生 「……。」

からくりが見えてきた。自分がまとめた復習ノートの内容が理解できていない様子。聞いてみると、教科書にある反応式や私が板書しながら説明した反応機構などを考えたり、吟味することなく、復習ノートにそのまま写し取っているとのこと。

私 それは「まとめている」のではなく、「書き取りをしている」だけだよ。

学生 （うなづく）。

このように、努力はしているが、間違った方法で努力をしている学生は少なくないのかも知れません。次の例も間違った努力です。

正しい学習とは？

私は定期試験後採点が終わると希望者には答案を開示している。成績の良し悪しにかかわらず、結果に関心のある学生は「結果を教えて下さい」と訪ねてくる。有機化学という科目の性格上、「○○と××の酸性度の違いを説明しなさい。」といった問題をしばしば出題する。大抵の学生は当てずっぽうでも解答欄を埋めてくる。

学生 先生、この酸性度の問題はこんなに書いている

のになぜ×なんですか？

私 じゃあ聞くけど、「酸性」とはどういう性質？

学生 「……。」

私 「酸」の定義は？

学生 「……。」

自分の書いた答えがなぜ×にされているのか聞いてくる学生が10人いれば、8～9人の学生はこの状態で、「正解」にたどり着くどころか「問題の主旨」すら理解できていないということです。「酸性」は、高校でも習う“化学”を勉強する上で不可欠な根本的物性です。本学に入学してからでも「化学・化学演習」、「基礎薬学実習」、「有機化学1」、「分析化学」などで習っているはずのものです。試験で好結果を残せない学生の多くは、「酸性とは何か」も分からずに「酸性度の違い」を正しく説明できていると思っているようで、新鮮な驚きでした。

なぜこういうことになるのでしょうか。恐らく「意味も分からずに暗記することに慣れてしまっている」のではないかと想像します。「○○と××の酸性度の違い」のようなフレーズを教科書や過去問で見たとき、「酸性」の正確な意味が分からないならそれを調べ直すところから始めるのが本来の学習であり、忘れてしまっても機会あるごとに「見返す」あるいは「調べる」作業をしておけば知識として定着するものです。

このような間違った学習方法では、内容を理解できていないため、意味のない数字の羅列を覚えるのと同じで、暗記するのも難しく、すぐに忘れてしまうはずです。また、内容を理解できていない知識（知識というより単なる記憶とよぶべきかもしれない。）は、他の知識との関連付けができず、応用も利きません。たとえば、化合物の「酸性」は、化合物の「解離しやすさ」→「水溶性」→「分配係数」→「膜透過性」→「吸収」と関連づけられるもので、「酸性」を理解していないということは、薬物の水溶性や吸収を本当の意味で理解できないということにもなります。

成績が伸び悩んでいる学生は、ここで紹介したような「間違った学習」をしているケースが少なくないのではないのでしょうか。この記事を読んで思い当たることがある人は、学内の試験を乗り切っていくためにも、将来の共用試験や国家試験に対応できる実力を養い、また、何より社会に出てから活用できる知識をつけるためにも（これが大学で学ぶ本来の目的であるはず）、是非「正しい学習」をする習慣を身につけていって下さい。

「正しい努力は裏切らない！」と確信しています。

学生生活：最近のトピックス

学生部長 教授 三野 芳紀

在学学生の皆さんは、元気に大学生活をエンジョイしているものと思います。また、勉学にも真摯な態度で取り組んでいることでしょう。現在は、定期試験も終わり、ホッとしているところかも知れません。

学生部は、皆さんが充実した大学生活を送れるように支援することを主な目的としています。ここでは、学生部から見た大学生活に関する最近のトピックスを中心に紹介します。

「貸切バスの運行」

本学は最寄りの「摂津富田」駅からかなりの距離があり、皆さんの約6割強がバス通学です。学生部では、バス通学の環境を改善すべく、今までも色々と努力してきました。それでもなお、大勢の学生たちで混雑する帰路の便も多くあり、また、そのような便で、市民の方からの苦情も届いていました。そこで、このような帰路のバスでの混雑を緩和する目的で貸切バス（市バス）の運行を平成26年4月から始めました。混雑が予想される時間帯に貸切バスを運行することで、皆さんの多くは、座って「摂津富田」駅まで行けるようになりました。また、「直行便なので楽である」と大変好評です。貸切バスでバス通学のストレスが少しでも緩和され、翌日の講義を元気に受けられるようになれば幸いです。

なお、一部の学生たちやご父母の方から、「帰路は改善されたが、朝の登校時にも貸切バスの運行ができないものか」との要望が寄せられています。朝の貸切バスは、駅前バス停の狭隘さからなかなか難しいと思いますが、バス通学の環境の更なる改善を目指して、検討を重ねているところです。



「学生食堂での朝食と夕食用弁当の提供」

平成26年4月から学生食堂で朝食の提供を開始しました。一食は250円で、メニューは、ご飯、汁物(味噌汁、スープの日替わり)、焼き物(卵焼き、ハムエッグなどの日替わり)、煮物(筑前煮、里芋などの日替わり)、和え物(ごま和え、白和えなどの日替わり)です。私も午前中に講義があるときは、時々利用しますが、値段も妥当で、決して悪くないと思っています。特に後期になって、内容がレベルアップしました。オムレツなどは熱々が提供されています(少し待ちますが)。朝食を摂らない学生が多いので、「朝食をしっかり摂る」という良い生活習慣をつけさせることが健康管理の面からも重要と考え、学生食堂で朝食を提供してしまし

た。今後は、何らかの補助の可能性も視野に入れつつ、この「朝食提供」が継続できるよう検討していきたいと思っています。

父母懇談会等で、「朝食だけでなく、夕食も提供してほしい」という意見があります。「私の娘は食事を作る時間を惜しんで勉強しているので……」というものです。夕食の提供自体は食堂の営業時間の関係で難しいのですが、食堂業者と相談した結果、試験的に夕食用の弁当を提供することになりました。当日の午後2時までに申し込めば、4～5時の間に食堂で受け取れるというシステムです。弁当の中身は学生向きで、しっかり栄養の摂れるものです。12月1日(月)～定期試験終了前日の1月19日(月)の間の利用者数を参考に、今後、継続か中止か判断する予定です。

「ATMの導入」

「ATMの導入」は、以前から希望が多かった案件です。最近では、比較的安価にATMの導入が可能であることが分かりました。利用者の数を把握するため、アンケート調査を行った結果、かなりの利用が見込まれること、また、当初導入予定であった機種よりも機能の充実した機種（費用は掛かりますが）を希望する学生が多いことが明らかになりました。そこで、セブン銀行のATMを平成27年の4月から導入することになりました。ATMは、下宿生にとって特に利用価値が高いと思われます。貸切バスの運行では、あまり恩恵を受けない下宿生にも、このような面でのサービスは意味があるものと思われます。なお、ATMは一年毎の契約ですので、利用者が少ない場合は中止します。できるだけ積極的にATMの利用をお願いします。

「レンタル袴」



学友会より、着物・袴のレンタル業者を利用したいと要望がありました。学位記授与式当日に学内で着付けやヘアセットを行うもので、業者による衣装展示会を学内で行いました。皆さんは学内で衣装を予約でき、学位記授与式当日も学内で支度できるため利便性が高いと思われます。この3月の学位記授与式では今までに増して華やかな女子卒業生が増えることでしょう。

このように、学生部では、学生の皆さんがより良い環境で大学生活をエンジョイできるように、これからも種々検討していきたいと考えています。

最後に、私ごとで恐縮ですが、3月末で任期満了にて学生部長の職を退きます。就任当初、2つの目標を

設定しました。1つは本学の大きな弱点であるバス通学の改善です。これに関しては、貸切バスをはじめ、それなりの改善の方向が見えて来ました。もう一つは、留年者数の問題です。皆さんに更なる授業マナーの改善をお願いしましたが、良い結果に結びついていません。これからは、国家試験の合格率（受験者に対する）だけでなく、入学者に対する6年後の国家試験合格者

の率が評価されるようになります。今まで以上に、大学として留年生を半減させることが求められます。学生の皆さんとともに、留年者の少ない大学を作っていきましょう。

学生、教員・職員、父母・卒業生、学長、理事長、みんなの笑顔のために。

「知のひろば」案内 2014

図書館長 教授 高岡 昌徳

以前にも増して、大学生に自発的な学習や実践に取り組むことが必要であると言われている今、「知のひろば」である大学図書館には、学生の主体的な取り組みを後押しするための「空間」を提供し支援することがこれまで以上に求められています。大学図書館の役割に関する最近の動向としては、これまでのWeb環境を含めた研究活動への支援やコレクションの構築だけでなく、インターネット環境への対応と情報リテラシー教育への関わり、さらには、ラーニング・コモンズ（自主的学習のための共有空間）の開設などが挙げられ、本学図書館でも、そのための環境整備を着々と進めています。

知っていますか？ その一

学生の皆さんは、図書館の4階に「AV利用室」という名の部屋があることを知っていますか。この部屋はこれまで個人によるDVDの視聴に利用されていましたが、図書館では、平成25年12月に共同学習を行える「空間」を提供するために改修工事を行いました。改修後は、「English Hour」という学生主体の英語学習会も毎月行われるようになりました。また、「AV利用室」には実践的な英語力をつけるための多読・多聴用CD付きリーダーズ（英語）を約1,000冊取り揃えています。この一年で、その貸出数が冊子数に匹敵するほどまでに伸びています。さらに、リーダーズのレベルも初級編から、中級編、上級編への貸出数が逐次増えています。さらに、改修に伴って、新規のDVD、BDレコーダー、液晶モニターを用意するとともに、タブレット端末の貸出しも行っていますので、この新しい共同学習スペースから優良語学学習サイトにアクセスできるようになっています。大いに利用してください。

知っていますか？ その二

学生の皆さんは、本学図書館で年2回「学生選書」

というイベントが行われていることを知っていますか。このイベントは、学生の皆さんが自らの目線で図書を選定することによって読書推進を図り、本に対する愛着を深めることを目的としています。このイベントでは自分だけでなく、他の学生にとっても「読みたい!」と思えるような本を選び、推薦理由を付けて書棚に配置することになっています。本年度は、通算して4回目（5月7日～14日）と5回目（9月29日～10月3日）が行われ、専門、一般および実用図書が合計200冊選ばれました。現在、学生の推薦理由を添えた選定書が3階の「学生選書」コーナーに並べられています。このコーナーで推薦理由を読むだけでも楽しいひと時を過ごせます。それ以外にも、館内で背表紙に黄色のシールを貼り付けている図書を見つけたら、それがこれまでに学生から選ばれたものです。図書の選定方法は、学内のブックセンターを利用する方式と、インターネットを利用する方式で行っていますので、本好きの学生さんは、このような機会を大いに利用してください。

最後に、本学の図書館が提供するサービスを計画・実施・評価・改善するためには、学生、教職員からの意見や要望が必要不可欠であります。図書館としてのパフォーマンスを十分に発揮するために、今後とも、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



学生選書の書棚

キャリアサポート課への誘い

キャリアサポート部長 教授 藤本 陽子

皆さんは少なからず「卒業後はどんな職業についているのだろう」と、期待と不安が入り混じった心境ではないでしょうか。就職というイベントはクールにみると売り手と買い手が存在するマーケットのようなものと思います。希望する職場（病院、薬局、薬系企業あるいは官公庁）の価値と自分自身の価値が一致した時、就職という社会へのスタート地点に立ってます。自身の商品価値が低いと応募しても就職試験の初期段階で落とされる可能性があります。就職希望先と自身の価値が一致していれば、就職希望先は内定を出してくれるでしょうし、皆さんは長く勤めることができます。自分自身の価値とは、職場が望む資質をもっているかどうかということです。就職活動の場では、職場にとって有益となるスキル、性格や将来性などがチェックされます。仕事ができるという点のみならず、長時間一緒に仕事をするということになり、協調性が必要となり、チームワークを高めていくことが求められます。さらに、皆さんが何らかの「売り」材料を作っていければ商品価値は倍増し、経済的そして精神的にも豊かな人生を形作れると思います。

西洋の民族性を揶揄したジョークに次のようなものがあります。「フランス人は走る前に考え、イギリス

人は走りながら考え、イタリア人は走った後に考える。」横並びが好きといわれている日本人の場合、「皆が走り出したのを見て、一緒に走る」となるかも知れません。それでは、就職活動において、「考える」のはどの時点が良いのでしょうか。「走る前に考える」「走りながら考える」「走った後に考える」のどれか「1つの時期」あるいは「2つの時期」あるいは「すべての時期」に考えるのが良いのでしょうか。皆さんそれぞれの学年や個性などさまざまな要因によって答が違ってくると思います。「走る前に考える」の場合、ただ「考える」だけでは経験が少なく、時間のロスに加えて、走る方向性を間違えることにつながるかも知れません。「走りながら考える」の場合は、就職活動の積み重ねが本人の精神面を成長させる貴重なものになると感じます。しかし、「走りながら考える」ことは薬系大学の多忙な日々では得がたいものとなりつつあります。そこで、低学年からキャリアサポート部・課が実施している多種のガイダンス・セミナーを大いに活用し、就職活動における知識や雰囲気を含め、経験値を少しでも上げる機会としてはいかがでしょうか。キャリアサポート課のドアを開け、悩みを話しに来てください。大いに助けになると思います。フィーリングのみで決めずに、しっかりとした知識と情報をもとに自分自身の将来を「考える」ことができるようにしてください。そして「走った後に考える」ことは本人の人生設計に関わる大切な機会です。大いに時間を使って自分自身で熟考してください。

最後に、就職は皆さんにとって大きなイベントです。就職活動を実際に行うまでに、「自分は何がしたいのか」に対する答えがはっきりと言えることが大切であることを心にとどめていただけると幸いです。

今後の健闘を祈っております。



職種紹介学内企業セミナー



公務員対策講座



キャリアサポート資料室利用状況

私の学生時代と在学学生の皆さんへ

有機薬化学研究室 教授 春沢 信哉

私は、昭和48年に大阪薬科大学に入学しました。旧奈良市内で育ったため、奈良時代創建の東大寺転害門をくぐり、正倉院と隣り合う小学校に通っていました。そのためでしょうか、古代の建築物や絵画を見たりするのが好きでした。また、歴史的事件が起こったその場所で、当時の物語を想像することがよくありました。高校2年生の時、アポロ宇宙船の月面着陸のテレビ中継があり、宇宙開発の最盛期を迎えていました。そのような熱い空気の中で、同級生のよくできる生徒のほとんどは理科系志望という状況でした。

私の薬学部への進学は、私の志望ではなく祖父の強い勧めからでした。明治生まれで、浄土真宗の僧侶であった祖父は、かつてお寺に調剤室があって、そこで僧侶自身が調剤をしていたと言っていました。その話は、今では、信じられないことですが、明治や大正の頃は、地方の医療や教育はそれぞれの自治に頼っていたことは容易に想像できることです。

私は、薬学に対する確たる志もなく、1年浪人し、本学に入学しました。その頃の4年制薬学部は、今と違って、ずいぶんのんびりとしていました。ほとんどがクラブ活動を熱心にしていました。私は、中学で9人制バレーボールをしていたので、バレーボール部に誘われました。この頃は、6人制に代わっていて、私のような背の低い者には不向きでしたが、練習はよくし、夏には長野県白馬村で合宿がありました。関西リーグに入っていたので、試合数は多く、定期試験の前日も試合に出かけるほどでした。クラブ員は、10名足らずでしたが、ここでは皆仲が良く、また、先輩の方々は、後輩の面倒をよく見てくれました。今も、その当時の仲間に連絡したり、前触れなく先輩から電話があります。その時は昔に戻って楽しく助け合っています。大学の1, 2年生の頃は、クラブ活動ばかりで、あまり勉強しませんでした。何か打ち込める事への欲求が自分の中にありました。2年生の後期に微生物学の実習があり、抗生物質を使いました。稲森善彦先生が、ペニシリンGの構造式を黒板に書かれたのですが、その複雑な構造の意味するものが全く分からなかったことをよく覚えています。抗生物質の構造が分からない、有機化学が理解できないということが、私が有機化学を勉強し始める切っ掛けになりました。その当時の有機化学の授業は、Griffinの英語の原書「Modern Organic Chemistry」が教科書でした。一方で、井本稔

先生の名著「有機電子論解説」があり、井本先生の創意工夫された話を読み進めていく中で、次第に有機化学を学ぶ意欲が芽生えました。4年生の特別実習は、栗原拓史先生の薬品製造学に入り、助手の坂本靖彦先生に最初の有機実験の手ほどきを受けました。その後、名古屋市立大学大学院で有機合成化学を塩入孝之先生に師事し、幸いにも、今日まで有機化学実験に基づいた研究を続けることができました。このように、私が有機化学の分野に進むようになったのは、有機化学が得意でなかったところから始まっています。学生の皆さんも苦手科目があると思いますが、「禍転じて福となす」ということがあると思うのです。

夏休み中のクラブの練習は、午前中で終わり、午後からは、旧松原校舎の図書館で勉強しました。その当時、まだクーラーは、普及せず、あるのは図書館ぐらいでした。図書館には、大学院受験のために、いつも勉強している1年先輩の数人のグループがいました。その中の一人が私に声をかけてくれるようになり、その人達と親しくなり生化学やドイツ語をよく教えていただきました。最初に、話しかけてくれたのは、辻坊裕先生です。それから10年位たち、同時期に本学に勤めることになりました。人との出会いが、勉強の意欲に繋がったり、研究への熱い気持ちが新しい友人をもたらしてくれるということは、今日までずっと続きました。遠い異国のスコットランドには、研究を通して知り合った親友がいます。若い学生の皆さんも学業やクラブ活動、将来の仕事を通して良き巡り合いがあることを期待します。

この小文を終えるに当たり、私の好きな言葉を話しておきます。小倉遊亀さんは、高名な女性日本画家で、亡くなられたのは、105歳という長命の方です。良人で宗教家であった鐵樹氏の影響でしょうか、彼女は、作品と共にエッセーをよく残しています。ある時、NHKでその朗読があり、「ぐどうしょうじん（求道精進）」という禅の言葉で彼女はエッセーを締めくくっていました。私は、その時、それを誤って「愚道精進」と聞いたのです。「愚か者でも一生懸命やれば何とか道が開く」と私の心によく響きました。それ以来、私の座右の銘になっています。もう一つ、犬好きの私が講演を頼まれると最後に言うのが、「犬も歩けば棒にあたる」です。色んな事に行き詰まった時は、これ位で過ごせばいいのではないかと思います。

第10回特待奨学生表彰

学生部長 教授 三野 芳紀

特待奨学生に選ばれた皆さん、おめでとうございます。各学年でトップクラスの学業成績を修められた皆さんに心から敬意を表します。

特待奨学生は、本学の奨学金規則の第2章にあるように、「学業成績が優秀な学生」と規定されています。そこで、学部学生に関しては、前年度の学業が極めて優秀な学生を対象にし、また、勉学の態度や学生生活における態度等々、総合的な観点から、教務部並びに学生部において慎重かつ公正に審議を行い、特待奨学

生を選出しました。また、大学院学生については、「特に成績優秀な学生または有望な研究を行っている学生」という観点から大学院小委員会において厳正な選考を行い、その結果を受けて大学院委員会において最終決定致しました。学部、大学院、いずれの場合も、学業成績だけではなく、様々な面で他の学生の模範となりうる学生であると確信しています。特待奨学生の皆さんには、その名に恥じないように、これからもますます精進して頂きたいと思います。

なお、表彰式は、藤田学長（当時）、楠瀬学長事務取扱（大学院特待奨学生表彰式）、指導教授、アドバイザーなど臨席のもとに挙行され、学長より奨学金目録の授与があり、訓示を賜りました（学外実務実習の関係で平成26年5月8日にも一部挙行しました）。

最後になりますが、特待奨学生に選ばれたことは、皆さんのキャリアの中で最も誇れるものの一つになるに違いありません。どうか自信をもって、各自の将来の夢に向かって邁進してください。皆さんの健闘を心から祈っています。



学部特待奨学生表彰式（5月8日）



学部・M1・D1特待奨学生表彰式（5月22日）



大学院特待奨学生表彰式（10月23日）

平成26年度 大阪薬科大学特待奨学生 表彰者一覧

学部学生（最優秀者1名、特別優秀者2名（同率あり）、優秀者4名の順）

2年次：勝見 菜奈	保田 華那	井上 梨沙	米田杏寿美	松下 円香	上北 佳美	崎本 晃太
3年次：大平 明香	山下 力也	曾我部絵里	宇野佐和子	篠山 淳美	中村 萌衣	篠田 薫子
4年次：中谷 優花	平山 聡子	山口 万穂	松原 菜美	家田 知美	藤井 健治	榎田璃菜子
5年次：山中 萌	能智 裕菜	中塚 侑吾	大山 翔	吉田 優紀	研 真梨子	西 麻衣

大学院学生

博士前期課程1年次：富田 秀明	博士課程1年次：國澤 直史
博士前期課程2年次：沼田 雅博	博士後期課程3年次：越智 洋輔

「スマイル」

—第49回大葉祭に思う—

学生部長 教授 三野 芳紀

10月31日(金)～11月2日(日)の3日間、恒例の大葉祭が開催されました。あいにく天候には恵まれなかったものの、3日間で5千人以上の入場者が訪れ、盛況な学園祭となりました。また、何よりも、けが人もなく無事に大葉祭を終了することができたことをうれしく思います。

大葉祭実行委員長の照屋くんをはじめ、実行委員の皆さん、そして見回り役、審査委員等でご協力頂いた多くの先生方に、この誌面をお借りして御礼申し上げます。特に、実行委員の皆さん、「お疲れ様でした」。多くの学生たちが、企画・準備から始まり大葉祭本番、そして後片付け等も含め、一つの目標に向かって全力で協力し合って大葉祭を成功に導いた姿に感動を覚えました。また、育友会はじめ、同窓会等多くの方々からのご協力やご支援なしでは、この大葉祭をうまく成功に導くことができなかったでしょう。育友会、同窓会の皆さまにも心から御礼を申し上げます。

今年は2日目の模擬店で、午前中の大雨によりテントに溜った水が調理用のフライヤー（加熱前）に入り、いくつかのクラブでは模擬店を止む無く中止しました。このようなことは再度起こり得ることであり、もし、加熱中に水が入れば火傷等の事故に繋がる可能性も否定できません。来年の大葉祭においては更なる安全対策の徹底を望みます。

大葉祭のイベントの多くは、各イベント担当者のアイデアが充分発揮されて、素晴らしいパフォーマンスでした。野外ステージ、体育館、学生ホールでは、日ごろの練習の成果を如何なく発揮していました。特に印象に残ったものを、写真等を用いて紹介します。

初日は、パリコレやミラノ・コレクションならぬ、名物の Daiyaku Collection が体育館で行われました。音楽に合わせて登場した女性たちは中々初々しくて可愛い人が多かったですね。優勝は「フットサル同好会」でした。

土曜日の夕刻に体育館で行われた5人組のバンド“FLOW”のライブも盛り上がりました。実行委員を中心とした警備係の的確な指示と昨年同様全席指定席にしたことにより、大きな混乱もなく、盛況のうちにライブを終了できました。バンドのMCが盛り上げ上手で会場が湧きました。みんなが手を突き上げて応援して（叫んで）いるのは会場に一体感があり、迫力



彼女を笑顔にするのは俺だ



笑う門には福来る



Daiyaku Collection

1日目



All in ダンスサークル発表



アンサンブル発表会

2日目



科学実験教室



DANCE BATTLE 2014



FLOW LIVE

がありました。このバンドが将来メジャーになるのが楽しみです。

最終日を飾る「薔薇祭」は例年にも増して盛り上がりました。今年は優勝候補の陸上競技部が参加しなかったのが寂しかったですが、レベルの高い戦いが繰り広げられました。何と云っても、圧巻は最後に登場したコーラス部、テニスサークルレボリューション、うたびとの3チームでした。どれも完璧なほど息の合ったダンスで、勉強の合間に練習したとは思えないような、充実した演技でした。優勝したテニスサークルレボリューションは2連覇を成し遂げ、本当におめでとう。練習の成果が十分に表れていました。2位のうたびとは惜しくも優勝こそ逃しましたが、非常に高い評価を得ていました。来年も熱い接戦を期待します。

今年の大葉祭は、テーマである「スマイル」に恥じない内容でした。各種イベントも、このテーマに沿っ

て、「笑う門には福来る」、「彼女を笑顔にするのは誰だ」、「笑顔の源 漢方の力」、「えがおをつなごうスマイルラリー」、「ベストスマイルカップル」等々。副題の「Happiness Comes Over (幸せがやってくる)」のように、来場者全員が、笑顔になり、そして幸せになるような大葉祭であったと思います。大葉祭実行委員長の照屋くんはじめ、執行委員長の秋葉くん、実行委員の皆さん、色々と協力された学生の皆さん、本当にありがとう。今回の経験を来年の大葉祭の中心となる後輩にも繋げていってください。

最後になりますが、私は常々本学において5つの笑顔が重要と言っています。学生、教員・職員、父母・卒業生、そして学長と理事長の笑顔です。今回の大葉祭のテーマ「スマイル」は、まさしく本学自体のテーマでもあります。本学のみんなが笑顔になり、幸せになると良いですね。

3日目



ライブ喫茶



薔 薇 祭

第49回大薬祭

「スマイル～Happiness Comes Over～」
を終えて

大薬祭実行委員長 照屋 亮

2014年10月31日～11月2日。この3日間は私の人生にとって最も充実し、最も走り回り、最も楽しんだキラキラした宝物のような怒涛の3日間でした。大薬祭期間中は忙しさのあまり、食事もうるかに摂れず、睡眠もほとんどとることができませんでしたが、心身の疲労を凌ぐほど大薬祭の3日間はとても充実していました。

2013年12月、第48回大薬祭実行委員長の板東さんから第49回大薬祭実行委員長に任命されました。当時は、今年度の実行委員の幹部の中でも昨年の大薬祭で関わったメンバーしか知り合いがおらず、楽しみだったのとは裏腹に不安でいっぱいでした。しかし、4月から始まった大薬祭の準備を皮切りに徐々に仲良くなっていき、6月のミーティングキャンプ、9月の幹部旅行を経て、実行委員の幹部はお互いに信頼できる最高の仲間になりました。

4月。まず初めの仕事は大薬祭のテーマを決めることでした。テーマは、幹部みんなで相談し、来場して下さるお客様はもちろん、大阪薬科大学の教職員の皆様、実行委員138人、みんな笑顔で大薬祭を楽しみたい！という思いで、「スマイル～Happiness Comes Over～」に決まりました。サブタイトルの「～Happiness Comes Over～」は、直訳すると「幸せがやってくる」という意味で、大薬祭を通じてみんなの幸せを呼び込みたい！という意味が込められています。これらの思いが詰まった大薬祭を作れるように幹部全員一丸となって全力で頑張ってきました。

9月の終わり頃、後期の授業が始まるとともに毎週土曜日に実行委員138人全員での準備も始まりました。そのころから、幹部の中ではどういう大薬祭にするか毎日熱く語り合っていました。第49回大薬祭を担当してもらったイベント業者のベースオントップさんとも定期的に直接会って話し合いをし、みんなが笑顔になれるような素晴らしい大薬祭を作ることを目指してき

ました。

10月になり、学祭1か月前には毎週土曜日の準備も大詰めを迎え、第49回大薬祭が目に見える形になってきて嬉しさを覚えるとともに、大薬祭が間近に迫ってきたという現実にはワクワクとドキドキが止まりませんでした。この頃には準備のために学校に21時まで残って作業することが増えてきて、準備期間中は非常に充実した日々を過ごすことができて楽しかったです。大薬祭前々日には体育館のシート敷きやステージ設営、前日には模擬店のテント張りや音響・照明といった最後の仕上げをし、いよいよ待ちに待った第49回大薬祭が始まろうとしていました。

さて、今年の大薬祭ですが、絶対に達成したい私個人の目標がありました。それは昨年と一昨年の大薬祭を超えるような最高の大薬祭を作ることでした。昨年、一昨年と実行委員をさせて頂いて、どちらも思い出に残る最高の大薬祭でした。しかし、今年は実行委員長という立場として実行委員138人を引っ張っていかなければなりません。実行委員のみんなの心に深く刻まれるような最高の大薬祭を作りたいと固く決心していました。そのために、3つの企画を私自身で用意しました。1つは、野外ゲリラライブです。昨年からは始まったイベントですが、予想以上の盛り上がりで、昨年来ていただいたアーティストさんが「来年も是非呼んでください！」とおっしゃってくれたので、今年も行うことに決めました。大雨の影響で屋内でのライブになってしまいましたが、結果は大成功でした。2つめは、大薬祭準備期間や開催中に撮った写真でスライドショーを作り、プロジェクターを用いてプロジェクションマッピングのようにD棟の外壁に大きく映し出すことです。これはその日の大薬祭のイベントが全て終了し、日が暮れて来場者の方々が帰るころに行いました。大薬祭1日目と3日目に行い、幻想的で非常にインパクトもあったので実行委員のみんなに喜んでもらえました。3つめは、垂れ幕です。この垂れ幕は2m×5.5mの大きな垂れ幕で、大薬祭の最終日にD棟の外壁から垂らしました。1.5mほどの巨大な筆で「ありがとう」と大きく書き、実行委員のみんなと来場者の方々、お世話になった教職員の方々に感謝の気持ちを伝えました。

私が前に立って引っ張るはずの大薬祭だったのですが、みんなの頑張りによって支えられ逆に私が引っ張ってもらえたような、素晴らしい大薬祭でした。みんなの頑張りがあったからこそ今年の大薬祭は成功したのだと心から感じています。大薬祭実行委員長として今年の大薬祭に一片の悔いもありません。最後になりましたが、理事長はじめ、学生部長、諸先生方、学校関係者の皆さま、毎年援助金をいただいている同窓会、育友会の皆さま、その他にもここには書ききれないほどの皆様にお世話になりました。このような形で大変恐縮ではございますが、この場をお借りしまして一言お礼を言わせていただき、終わりにしたいと思います。本当にありがとうございました。



大薬祭実行委員会のメンバー

平成27年度カリキュラム改訂 —薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂を受けて—

カリキュラム委員長 教授 辻坊 裕

薬学教育モデル・コアカリキュラムは、「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」において、各大学の現状や寄せられた要望、大学団体および職能団体等からの要望を踏まえて、平成25年度に新しく改訂されました。その【基本理念】【位置付け】および【A～Gの項目立て】の概要について、簡単に述べさせていただきます。

【基本理念】薬学や医学、生命科学等に関わる科学技術の進歩は著しく、科学を基盤として医療に貢献する薬剤師の職責に求められる薬学の知識や技能は増え、専門分化されると同時に高度化しており、限られた大学教育の中で、これらの膨大な知識や技能等を網羅して修得することは困難であります。そこで、学生は6年制学部・学科の学士課程教育の段階では、将来どのような分野に進んだ場合にも共通に必要な薬剤師の基本的な資質と能力を修得し、その上で、生涯にわたって常に研鑽し、社会に貢献することが求められます。薬学教育モデル・コアカリキュラムは、このような状況を踏まえ、6年制学部・学科としての教育内容を精選し、卒業までに学生が身につけておくべき必須の能力（知識・技能・態度）の到達目標を分かりやすく提示したものです。

【位置付け】6年制学部・学科のカリキュラムは、大別すると、教養教育を含む薬学準備教育、モデル・コアカリキュラムに準拠した教育、各大学独自の薬学専門教育から構成されています。改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムは、従来のものと比べてスリム化されていることから、教育課程の時間数の7割をモデル・コアカリキュラムに示された内容の履修に充て、残りの3割程度の時間数で個性ある大学独自のカリキュラムを準備することが必要であると述べられています。また、今回の改訂は、6年制薬学教育の質の向上を目指すために行うものであり、各大学の教育力

リキュラムが薬学共用試験や薬剤師国家試験に合格することのみを目標とする教育に偏ることのないよう留意すべきであるとも述べられています。

【A～Gの項目立て】改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムは、項目A～Gによって構成されています。

【A 基本事項】では、薬学生が薬剤師として身につけるべき生命・医療の倫理、チーム医療とコミュニケーション、患者中心の医療、医療安全、薬学の歴史および生涯学習などを学びます。

【B 薬学と社会】では、人、社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制、および薬剤師と医薬品等に関わる法規制、地域における保健、医療、福祉などを学びます。

【C 薬学基礎】では、薬学生がいずれの分野に進むにせよ必要である薬や化学物質と生命に関わる物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学の知識と技能を学びます。

【D 衛生薬学】では、人々の健康・公衆衛生、生活環境・環境保全を学びます。

【E 医療薬学】では、薬の作用・体内動態・疾病治療、製剤化を学びます。

【F 薬学臨床】では、薬学実務実習前に、大学において調剤、製剤、服薬指導など薬剤師としての職務に必要な基本的知識、技能、態度を学ぶ事前学習と、病院および薬局で行う参加型の薬学実務実習から構成されています。

カリキュラム委員会は、以上述べました改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムの

【基本理念】【位置付け】および【A～Gの項目立て】などを踏まえ、平成27年度以降の入学生を対象とする新カリキュラムの作成に平成25年11月からとりかかり、現在、薬学科（6年制）および薬科学科（4年制）のカリキュラムがほぼ完成しました。カリキュラム委員

会は、有機・生薬系、物理・分析系、生物科学・衛生系、薬理・薬剤系、臨床系、実務、教養教育・語学教育の各代表者および学長、教務部長、薬剤師国家試験対策委員長から構成されています。

今回、カリキュラムを作成するにあたり、まず学生の負担度を軽減することを第一の目標に掲げました。すなわち、講義、演習、実習など「教える」機会を可能な限り少なくし、学生が主体的に「学ぶ」ことができる学習環境を提供することを目標にカリキュラムを作成しました。1年次～3年次までは比較的必修科目が多く配置されていますが、4年次、6年次には選択科目としてのアドバンスト科目を配置し、学生の自由度を高め、主体的に「学ぶ」時間を確保できるように配慮されております。薬学科において卒業に必要な単位数は190単位となっています。一方、薬科学科において卒業に必要な単位数は136.5単位となっています。

次に、新カリキュラムの特徴について簡単に述べさせていただきます。まず、語学教育につきましては、社会のグローバル化に対応するための国際的感覚を養うことを目的に、英語の講義時間数を増やすとともに、第二外国語として従来から開講されている「ドイツ語」

「フランス語」に加え、新たに「中国語」「ハングル」を導入しました。また、4年次前期に開講される「薬学英语」につきましては、従来の薬学英语とは異なり、薬剤師が臨床現場で必要とされる内容になっています。

特別演習・実習（卒業研究）につきましては、従来は5年次前期～6年次後期までの期間に各研究室で研究を行い、卒業研究の発表および卒業論文を作成することが義務付けられていました。しかし、昨年からの薬剤師国家試験の難易度が高くなったことを踏まえ、卒業研究と国家試験勉強とを住み分けることが必要であるとの判断から、新カリキュラムでは、学生は4年次前期から研究室に配属され、6年次前期まで時間の許す限り卒業研究に取り組むことに変更されました。このカリキュラムでは、6年次後期に集中してこれまでに学習した内容を再度確認し、確実なものにすることができます。病院実務実習および薬局実務実習は、従来と変わらず5年次前期・後期に配置されています。

以上、新カリキュラムについての概略を説明させて頂きました。今後とも社会のニーズに合ったカリキュラムを学生に提供することを目的に、引き続き改善していきたいと考えています。

FD 活動の現状と課題

FD 委員長 教授 辻坊 裕

はじめに

FD（ファカルティ・ディベロップメント）は、主に個々の教員の授業内容・方法を改善するために、各大学、学部、学科等が組織的に行う研究・研修等の取り組みの総称であり、2007（平成19）年度の大学設置基準の改正を受けてすべての大学において義務化されています。本学もこれを受けて、2007（平成19）年度からFD委員会を設置し、教育活動の充実、および学習環境の整備のために努力を続けています。FD委員会は、現在「授業に対する学生アンケート」「公開授業（ピア・レビュー）」「公開授業研究会」および「FD

講演会」などの活動を行っています。今回、本学におけるFD活動の現状と課題について述べさせていただきます。

取り組みの内容・方法

1. 授業に対する学生アンケート

「授業に対する学生アンケート」は、原則すべての講義、実習、演習で実施されており、授業を評価するための質問内容は、次の7つに分かれています。

(1) この授業はあなたの学習への取り組みを高めるものでしたか？

- (2) この授業の教え方・進め方は、あなたが内容に興味を持ったり、内容を理解したりするのに役立つものでしたか？
- (3) この授業は興味が持てるものでしたか？
- (4) この授業の内容は理解できましたか？
- (5) この授業についてあなたは予習・復習をしましたか？
- (6) この授業はシラバスに沿って行われましたか？
- (7) この授業を総合的にどのように感じましたか？

以上について、前・後期1回ずつ年2回のアンケートを実施し、その結果は集計後グラフ化し各担当教員に配付されます。教員は結果や学生の意見に基づいて、次年度の授業の改善に繋がります。このような授業に対する学生アンケートの全体的な結果は、本学のホームページに公表されています。また、学生は科目ごとのアンケート結果とそれに対する授業担当教員の所見を教務課カウンターで閲覧することもできます。

2. 公開授業（ピア・レビュー）

公開授業（ピア・レビュー）については、教員を有機・生薬系、物理・分析系、生物科学・衛生系、薬理・薬剤系＋臨床系、および総合科学系に分け、前・後期にそれぞれの系から選ばれた教員の講義をFD委員を含む教員が参観し、評価するとともに、学生にも講義に関するアンケート調査をします。その後、授業参観教員による評価および学生アンケートに基づいて、講義担当教員、授業参観教員、およびFD委員によって「授業研究会」が開かれ、講義方法、講義内容などについて活発な意見交換が行われます。「授業研究会」は、講義担当者のみならず、講義を参観した教員についても講義の改善に大いに役立っています。教員による「授業研究会」の後、さらに学生も参加可能な「公開授業研究会」が開催されます。本年度は11月14日（金）に「学生FD委員会」参加のもと、実施されました。

3. FD 講演会

FD活動の推進・活性化および教育改革を目的に、その分野に造詣が深い講師をお招きし、教職員を対象にFD講演会を開催しています。その際にアンケート調査を行い、FD講演会の更なる改善に役立てています。本年度は2015（平成27）年1月13日（火）午後3時から関西大学教育推進部教育開発支援センターの森朋

子先生をお招きして、「アクティブラーニングの新しい展開・反転授業―「わかった」を引きだす授業を創るには―」についてご講演いただきました。

社会においては主体的に「学ぶ」人材の養成が求められています。本学のカリキュラムにはSGDやTBLなどのアクティブラーニングを用いた授業が少なく、今後積極的にアクティブラーニングを授業に取り入れることが必要であると思われます。例えば、授業の前半を講義に使い、後半にSGDやTBLを行う。また、実習では最後にSGDやプレゼンテーションを行うなど、講義、実習にアクティブラーニングを積極的に取り入れることが必要だと思われます。今回の講演会は、アクティブラーニングについて考える絶好の機会であったのではないかと思います。

今後の課題

これまでは、教員が中心となって授業内容・方法を改善し、向上させる目的でFD活動を行ってきましたが、今後は大学を構成する教員、職員、および学生が協力して、組織的に教育の改善を行うことが必要であると考えています。教育の主役が学生であれば、FD活動に学生が積極的に参画し、学生・職員・教員が協同して、学生目線からの授業改善を行っていくべきであると考えます。現在、「学生FD委員会」と「教員FD委員会」との懇談会を開催し、学習環境について広く議論したいと考えています。そうすることにより、授業は学生と教員との協同作業のうえに成り立つことを教員はもちろんのこと、学生にも実感してもらえば、授業の大いなる改善に繋がるものと思われます。

FDとは、個々の教員の授業内容・方法を改善するための活動と考えられ、実際に多くの大学のFD活動は、この観点を中心に行われているように思われます。一方、教育と研究の両面を求める大学では、教員を取り巻く教育と研究全体を改善するかなり広い活動をFDと定義する大学が存在します。本学のような教育と研究の両面を求める大学では、教育のみならず研究全体の改善および質の向上に向けての議論を始めてもよいのではないかと考えています。

今後とも教員、職員、学生の皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年度 大阪薬科大学公開教育講座とサテライトセミナーを終えて

公開教育講座委員長 教授 松村 人志

(1) 公開教育講座

平成26年度の大阪薬科大学公開教育講座は、例年通り、梅田スカイビル タワーウエスト36階にて計3回開催いたしました。開催時間はいずれも14時から17時35分まで。講座内容は以下の通りです。

【第66回】5月24日(土)

「薬物治療に活かす薬物動態」

大阪薬科大学 薬剤学研究室 准教授 宮崎 誠

「医薬品情報から薬物動態を読み解く」

慶應義塾大学 薬学部 大学院 薬学研究科

臨床薬学 教授 大谷 壽一

【第67回】7月19日(土)

「最近の薬務行政について」

厚生労働省 医薬食品局 総務課 蓮見 由佳

「薬剤師が知っておきたい『妊娠とくすり』」

奈良県立医科大学 産科婦人科学教室 学内講師

産科医長 成瀬 勝彦

「妊婦・授乳婦におけるカウンセリング

—情報収集のための基礎知識—」

奈良県立医科大学附属病院 薬剤部 錦織芽久美

【第68回】11月22日(土)

「がん疼痛治療におけるオピオイド使用と薬剤師の役割—痛みと副作用の症状マネジメント—」

大日本住友製薬株式会社

製品企画部 細川 泰博

「在宅緩和ケアの現状」

医療法人社団 関本クリニック 院長 関本 雅子

「薬剤師法改正が求める新薬剤師」

三輪亮寿法律事務所 所長 三輪 亮寿

これらの講座について、簡単な説明を付記します。

第66回は薬物動態を取り上げました。薬物動態は、薬学部でしか学ぶことがない上に、医療の中で今後ますます重視される領域です。薬剤師しか、この領域の知識・情報、そしてそれらを基に適切な判断ができる能力を備えた医療関係者がいないのですから、今後の薬剤師は大いにこの領域に精通すべきであると考えられます。

第67回は、妊婦・授乳婦に対する薬物治療を取り上げました。多くの医療関係者にとって、妊婦・授乳婦に対する薬物治療は責任も大きい上に非常に難しい課題ですが、薬剤師は、今後ますます患者やその家族の

みならず、医師やその他さまざまな医療関係者からも問い合わせを受ける立場に置かれることになります。そこで、その基本的な考え方、情報の収集の仕方、重要な情報源等について学んでおくことは不可欠と思われます。

さらに、現在の日本は、超高齢化社会となり、2025年にそのピークを迎えることになります。良質の医療を公平に提供し続けるために、状況に合致した合理的で適切な医療の仕組みを再構築する必要性に迫られております。厚労省を始めとする国家の中核でどのような戦略を立てようとしているのか、われわれも十分に気をつけていなければなりません。その意味で、厚労省で現在ご活躍の方にご講演をいただき、政府の目指している方向性について、参加者の皆様方に少しでも汲んでいただこうと企画いたしました。

第68回は、今後ますます必要になると予想される在宅緩和ケアと、その際に必要となる痛みのコントロールのための薬物治療に焦点を当ててみました。年を取ればがんを患う可能性が増すのはやむを得ない現実です。国も「がんの在宅療養」を勧める方針を打ち出しております。そうなれば薬剤師が頼りにされる機会が増えるのは間違いありません。また今後は、地域医療全般において薬局が果たす役割が格段に重要になると予想されます。

また、このような時代の流れと同期して、平成26年に薬剤師法と薬事法（医薬品医療機器等法）の改正・施行がなされました。この改正により、薬剤師の責任は、これまでとは比べ物にならないほど重くなります。もちろんその分、権限も大きくなることでしょう。さて薬剤師はこのチャンスをどのように活かしますか、というような観点で、薬学博士でありながら弁護士に転向され、薬剤師を強力にバックアップしてこられた三輪亮寿先生にお話を伺いました。三輪先生は、これから薬剤師になる学生に知ってもらいたいと熱望しておられたのですが、今回は、既に薬剤師として活躍中の皆様が主な受講者でしたので、未来の薬剤師である学生を対象とした講演はまた別の機会に企画したいと思います。

参加者数ですが、第66回は369名、第67回は385名、第68回は300名でした。そのうち本学出身者の参加は146～164名です。今後、より多数の本学出身者の参加を期待しております。

なお、第66回は医薬品化学研究室の田中麗子先生に座長の労を執っていただきましたのに加え、同研究室内の教員及び学生の皆様方にご協力をいただきました。また、第67回は薬物治療学 研究室の島本史夫先生と所属の教員及び学生の皆様方に、第68回は薬物治療学 研究室内の教員及び学生の皆様方に、それぞれご協力をいただきました。また、本年度の公開教育講座委員会委員として、島本史夫先生（薬物治療学 研究室）、井尻好雄先生（循環病態治療学研究室）、西野隆雄先生（臨床薬学実務教育研究室）、宮崎誠先生（薬剤学研究室）、及び臨床教育支援課の福永治久さん、塚田ひろみさん、村田祐子さんに、座長を始め企画・運営等々においてご協力いただきました。また、講座当日には、多くの事務系職員の皆様方にご協力をいただきました。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

(2) サテライトセミナー

さて平成26年度は、公開教育講座に加えて、新たにサテライトセミナーを企画いたしました。大阪薬科大学附属薬局を教育施設としても活用していこうとの関係各位の合意もあり、その3階を使用することに致しました。参加応募者は26名でした。参加者とわれわれ企画・運営スタッフとで行う講義・演習・実習の4日間でした。開催日及び内容は以下の通りです。いずれの日も13時から17時までの開催でした。

【第1講】9月21日(日)

「予測・予防の医療と重篤副作用概説」 (講義)

「薬剤情報の文書作成の意義と工夫について」 (演習)

「医薬品情報収集のためのインターネット活用法」 (演習・実習)

「第4講目の演習に向けての症例提示」等々。

【第2講】10月19日(日)

「薬物動態の基礎と応用—コンパートメントモデル、血中薬物濃度、等々—」 (講義)

「血中薬物濃度に関する時間プロファイルの解析と

評価について（薬物動態に関するシミュレータープログラムを用いて）」 (演習・実習)

「水銀血圧計を用いた血圧測定の実験」 (実習)

【第3講】11月16日(日)

「薬物動態と効果の関係—基礎編—」 (講義)

「DIG trial、中毒とヒステリシス現象—臨床編—」 (講義)

「薬剤師によるフィジカル アセスメントの知識と技術—実習用モデル（フィジコ）を用いたフィジカル アセスメントの実験、神経診察の実験、救命処置の実験—」 (実習)

【第4講】12月21日(日)

「課題症例のsmall グループ ディスカッションとグループ発表—ジゴキシン中毒、フェニトイン中毒、ハルシオン中毒—」 (演習)

このサテライトセミナーは、これからの薬剤師に期待される薬剤師ならではの知識・情報・思考力を身につけていただこうと企画したもので、それだけに内容はかなり高度だったのではないかと思います。参加者の皆さんは、熱心に取り組んでおられましたし、企画・運営に当たったわれわれ一同にとっても非常に勉強になりました。

ちなみにこのたびの参加者について説明しますと、本学出身者は応募者26名中10名、また参加者の中で薬局勤務の薬剤師の方々と、病院勤務の薬剤師の方々がほぼ半々でした。参加いただいた薬剤師の方々と、企画したわれわれとが一体となって学ぶことのできた充実した実践的セミナーだったのではないかと思います。

なおこのサテライトセミナーの実施内容は、井尻好雄先生、宮崎誠先生、西野隆雄先生に中心となっただき、企画・運営されたものです。また、島本史夫先生、幸田祐佳先生（薬物治療学研究室）、田中早織先生（薬物治療学研究室）にもご協力をいただきました。そして、大阪薬科大学附属薬局の小川賀偉先生、鈴木靖規先生、羽田理恵先生、中島美佐子先生にもご

協力をいただきました。もちろん全体のマネジメントに関しては臨床教育支援課の福永治久さん、塚田ひろみさん、村田祐子さんに大変なご苦勞をいただきました。この場を借りて、ご参加いただいた皆様方、そしてご協力をいただいたすべての皆様方に心より御礼申し上げます。

サテライトセミナーの様子



コンピューターのシミュレータープログラムを用いて薬物動態について実践的に学びました。



フィジコを用いてフィジカルアセスメントの実習も行いました。

平成26年度 市民講座

市民講座委員長 教授 戸塚 裕一

大阪薬科大学市民講座は、市民の皆様には医薬品や健康についての理解をより一層深めていただきたいとの趣旨で、本学の特色を活かした講演活動の一環として企画・開催しているものです。お蔭様をもちまして、本学近隣を中心に、関西地域住民の方々の年間行事として定着し、この度第38回を開催することができました。これもひとえに多くの皆様のご支援の賜と、関係者一同、心より感謝いたしております。

さて、第38回の市民講座は、医師・薬剤師をはじめとした医療関係者等に、「おくすり手帳」の重要性、医療情報の活用等を分かりやすくご講演いただき、「安心な医療を受けるために、お薬の情報を有効に利用しましょう！」というタイトルで、10月18日(土)に開催いたしました。当日は204名(学生含む)もの方々にお越しいただきました。講演の後には、参加者の皆様方と共に議論を深めるべくパネルディスカッションを催しました。身近な「薬」に関するテーマということもあり、聴講者からは多くの質問があり、活発な議論が交わされました。熱のこもったご講演をいただきました三宅良宏先生、岩城晶文先生、田中基晴先生及び久保正裕先生に心より御礼申し上げます。また、

「薬用植物園の見学」、「くすりの相談室」及び「図書館、資料展示室の特別公開」も例年どおり開催し、多くの皆様にご利用いただきました。ご参加いただきました皆様、そしてご協力いただきました先生方や学生の皆様へも重ねて御礼申し上げます。

本学では上記市民講座のほか、高槻市の都市文化の振興とまちの活性化に協力するために、様々な高槻市の事業等に参画しております。本年度も「夏休み子ども大学」、「高槻市大学交流センター事業市民講座」を下記のとおり開催いたしました。「夏休み子ども大学」では19組の親子の皆様にご参加いただきました。ご担当いただきました加藤隆児先生をはじめ、佐藤健太郎先生、金美恵子先生及び銭田晃一先生のご指導により、水剤・軟膏・錠剤を体験してもらいました。

「大学交流センター事業市民講座」では、58名の方が、当麻成人先生の明快な講義を聞きながら熱心にメモを取っておられました。

さらに、今年度より大学コンソーシアム大阪主催の「大阪中学生サマー・セミナー」に講座を提供いたしました。本講座は、大阪府内の中学生を対象とした講座となっており、抽選で選ばれた20名のうち、18名の

第38回市民講座 10月18日(土)



三宅 良宏 先生



パネルディスカッション



岩城 晶文 先生



田中 基晴 先生



久保 正裕 先生

方に参加いただきました。講座では、薬用植物園での観察と試料採取、色素の抽出や酸・アルカリの添加による色調の変化と pH 測定、光学顕微鏡や電子顕微鏡を使った組織の観察を行いました。アンケートでは「今後の勉強や将来を考えるきっかけに役立つ内容だっ

た」と好評をいただきました。

来年度も、皆様が関心をお持ちのテーマについて、最新の情報を発信してまいりますので、大阪薬科大学市民講座委員会の諸企画を楽しみにしていただきたく存じます。

平成26年度市民講座

(敬称略)

第37回 平成26年 5月31日(土) 13:00～16:10

「健やかな老いを求めて」

1. 食品のリスク評価の考え方

内閣府食品安全委員会 委員 山添 康

2. 花は街を育て、人を育てる

ながの花と緑そして人を育てる学校 校長

ながの緑育協会 事業局長 矢澤 秀成

第38回 平成26年10月18日(土) 13:00～16:05

「安心な医療を受けるために、

お薬の情報を有効に利用しましょう！

市民、医師、歯科医師、薬剤師のつながり

—薬薬連携—

1. あなたの命を守るお薬手帳

一般社団法人高槻市薬剤師会 三宅 良宏

2. ‘知りたい’ 伝えたい’

～「お薬手帳」と病院薬剤師の役割～

社会医療法人愛仁会高槻病院

薬剤科 岩城 晶文

3. 安心な医療を受けるために～薬薬連携の重要性～

一般社団法人高槻市医師会 田中 基晴

4. 歯科治療と薬の注意点について

一般社団法人高槻市歯科医師会 久保 正裕

5. パネルディスカッション

平成26年度高槻市大学交流センター事業関連

夏休み子ども大学

平成26年 8月9日(土) 9:00～12:00

「薬剤師さんに変身！ —こども薬剤師体験—

大阪薬科大学 循環病態治療学研究室

講師 加藤 隆児

大阪薬科大学 製剤設計学研究室

教授 戸塚 裕一

大阪薬科大学 臨床実践薬学教育研究室

教授(特任) 佐藤 健太郎

大阪薬科大学 臨床実践薬学教育研究室

教授(特任) 金 美恵子

大阪薬科大学 三大学医工薬連環科学教育研究機構

准教授(特任) 銭田 晃一

会場：大阪薬科大学 D棟 2階実習室

平成26年度高槻市大学交流センター事業市民講座

平成26年11月8日(土) 14:00～15:00

「健康寿命について考える」

大阪薬科大学 環境医療学グループ

准教授 当麻 成人

会場：クロスパル高槻(高槻市立総合市民交流センター)

7階 第6会議室

平成26年度大学コンソーシアム大阪関連

大阪中学生サマー・セミナー

平成26年 8月4日(月) 9:00～12:30

「くすりに使われる植物について調べてみよう」

大阪薬科大学 生薬科学研究室

准教授 芝野 真喜雄

大阪薬科大学 生体機能解析学研究室

准教授 坂口 実

大阪薬科大学 薬品分析化学研究室

講師 佐藤 卓史

会場：大阪薬科大学 C棟実習室、薬用植物園

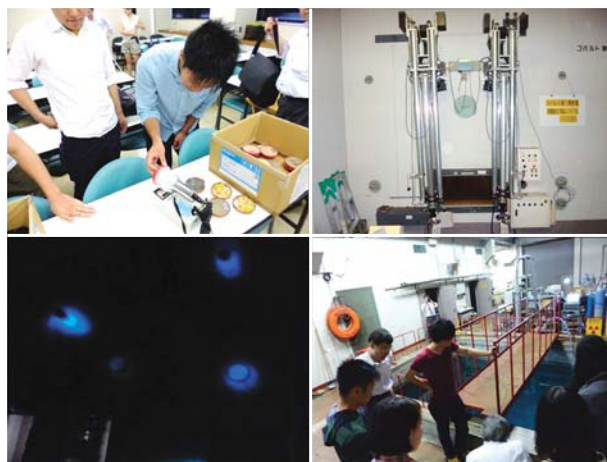
三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況（その7）

准教授（特任） 銭田 晃一

三大学医工薬連環科学教育研究機構は、「分子から社会までの人間理解」を目指し、医療や福祉の分野で活躍できる人材教育と社会還元に取り組んでいます。人材教育の面では、「教育課程の構築と教育環境の整備」を掲げていますが、そのための“遠隔講義システムによる双方向講義”については以前、大阪薬科大学報 68号で紹介させて頂きました。双方向講義はリアルタイムでテレビ会議システムを用いて行われるため、受講生は所属する大学の講義室で受講することができます。ただ、バックグラウンドが異なる学部の科目を理解することは講義を聴くだけでは容易ではないかも知れません。そこで、本学から配信されている科目（応用放射化学、生薬学1、生薬学2、機能形態学1）については、関西大学の受講生に向けて実習を行ったり、皆さんと合同で施設見学を行ったりしています。今回はその内容を簡単に紹介したいと思います。

まず、本学の3年次生前期に配置されている大桃先生の応用放射化学ですが、大阪府立大学中百舌鳥キャンパスの地域連携研究機構・放射線研究センターに於いて関西大学生および皆さんを対象に合同の見学実習が講義期間中に実施されています。同センターにはコバルト60ガンマ線源と16メガ電子ボルトの高エネルギー電子線形加速器を主な放射線源とする、日本の大学では最大級の歴史ある照射施設があります。まず、量子線化学生物研究室の古田雅一教授による放射線の応用についての講義があり、実際の照射施設を古田先生が説明しながらご案内くださいました。中でも水深5メートルのプールに沈められたコバルト60線源から出る青白いチェレンコフ光を自分の目で見ることができるのはこの施設見学ならではのです。他にもガンマ線滅菌の医療器具や架橋促進などの工業応用の実際についても展示品を見ながら知識を深めることができました。皆

さんについては大桃先生の応用放射化学の講義時に案内をさせて頂いています。先着10名程度は受け入れられますので、興味がある方は是非ご参加ください。



大阪府立大学放射線研究センター見学

次に芝野先生の生薬学1、生薬学2ですが、皆さんについては武田薬品工業(株)京都薬用植物園での観察会が講義期間中に実施されたと思います。関西大学の学生さんについても芝野先生がご配慮くださり、参加が可能な受講生については皆さんと一緒に見学し、通常見る機会が少ない生薬の原料となる薬用植物の生育



武田薬品工業(株) 京都薬用植物園見学

状態や薬用部位の観察を行うことで、講義内容の理解を深めてもらっています。

また、生薬学2の講義がほぼ終了する7月の土曜日を一日利用し、朝から本学に関西大学の学生さんに来て頂いて、芝野先生による実習が実施されています。午前中は薬用植物園においてカンゾウ、マオウ、ウコン、チョウセンアサガオ、キキョウ、ニンジン（薬用人参）などの地上部の観察や、可食のものは味見をしてもらったりしました。午後からはC401実習室にて桂枝茯苓丸の作成や、補中益気湯を構成する10種類の生薬の1日量をそれぞれ計量し、漢方煎じ器で煎じました。煎じ終わるまでの時間を利用し、生薬の鑑定も行いました。学生さんには刻み生薬である漢方薬が配られ、形状や香りなどを手掛かりにどのような生薬が何種類配合され、その漢方薬が何であるかを考えるというものでした。正解するのは少し難しかったかも知れませんが、真剣に取り組む姿がとても印象的でした。



生薬学2実習

本学では1年次生後期に配置されている高岡先生の機能形態学1については講義がほぼ終了する時点の12月に、本学の3年次生を対象に実施されている薬理学の実習内容の一部に関西大学の学生さんに来て頂いて午後から半日行っています。実習の前半は末梢神経系としての自律神経系の理解を深めるため、大喜多先生、田中(亮)先生にご指導頂き、交感神経刺激薬（アドレナリン、ノルアドレナリン、イソプレナリン）と遮断

薬（フェントラミン、プロプラノロール）をラットに投与し、カテコールアミンの α 作用と β 作用を観血的血圧測定により観察しました。後半は中枢神経系について、大野先生、清水先生にご指導頂き、マウスに向精神薬のハロペリドールとドパミン作動薬のアモルヒネを投与し、オープンフィールド法その他、行動観察を通して、ドパミンの機能と錐体外路系について理解を深めて頂きました。



機能形態学1実習

その他、大阪医大配信の医学概論は講義の一部に、“生命誌”という観点から「生まれる」、「育つ」、「暮らす」、「老いる」、「死ぬ」、というライフステージを捉えるというのがあります。この科目については三大学の受講生は定められた期間に高槻市にあるJT生命誌研究館を見学した上で、生命誌に関するレポートを提出して頂いています。

講義を聴いただけよりも実験や実習など、体験したことは記憶に良く残ると言われます。双方向講義の本学配信科目については、今回紹介した内容の実習や見学などを他学部の受講生に対しても行ってきました。実習は、講義で学んだことを身につけるために大変重要だからです。実習後のアンケートでは“実習はとても良かった。”と好評を頂いています。もちろん、皆さんは基礎ならびに専門教育科目の講義に加えて、いくつもの実習があります。どちらもしっかり取り組んで知識や技能の修得に励んでください。

図 書 館

図書館長 教授 高岡 昌徳

本学図書館はA棟(旧本部・図書館棟)の3, 4階に位置しています。延べ床面積は2,035m²で、このうち閲覧室などの面積は1,273m²です。また、閲覧室内の書架は総延長が4,410mであり、文部科学省による図書館実態調査の際に用いられる方法で求めた収容可能な書籍の冊数は、約120,000冊となります。現在の蔵書数は約92,000冊であるため、現状では書架の収容能力に余裕はありますが、近い将来、収容能力を超えることが予想されるため、常に蔵書点検を行い、利用価値が低くなった重複する資料の除籍を効率的に行い、書架スペースの確保と利便性の向上に努めています。

開館時間は、授業が行われている平日(月～金)は9～20時、授業のない土曜日は10時～16時30分(試験期間中は18時まで)となっています。また、併設するグループ学習室は7時から22時まで開いています。

現在、図書閲覧室とグループ学習室に191の座席を用意しています。従前は試験期間前になると座席が慢性的に不足していましたが、D棟に自習室(128座席)が設置されてからは、以前のような混雑は少なくなりました。しかし、座席数が不足していることに変わりありませんので、今後とも、図書館内とグループ学習室の空間配置を改善し、自習するための座席数を増やしていく必要があります。

館内には11台の情報検索用端末を設置しています。学内ネットワークの整備に伴い、電子ジャーナル、オンラインデータベースやeBookなどへのアクセス環境も毎年のように改善されています。学内ネットワークには、OPAC(Online Public Access Catalog: 図書館蔵書検索システム)と連携した電子資料ナビゲーションツール(SFX リンクリゾルバ)が組み込まれています。さらに本年度は、図書検索システムの機器更新を実施し、Primo(統合検索システム)と連携すること

により、今まで以上に多種多様な情報資源へのアクセスが可能となりました。

図書館のホームページ(<http://lib.oups.ac.jp/>)では、情報検索、学術雑誌目録、利用案内、電子ジャーナル、SciFinder Scholar、データベース、お知らせ、文献取り寄せ、購入希望図書の項目を設定し、情報の提供と収集を行っています。このうち、

の項目では、各ジャーナルだけでなく、10種の電子ジャーナルコンソーシアムに参加することにより、迅速かつ的確な情報収集を可能にし、学内から4,000種類の電子ジャーナルにアクセスできるようになっています。今後も、他の電子ジャーナルの導入を推進する予定にしています。

本年度、図書館4階のAV利用室をリニューアルし、この部屋を共同学習スペースとして、学生の自主的の外国語学習に役立てるために提供しています。現在、多読・多聴用の蔵書とCD/DVDを増やすとともに、タブレット端末で電子媒体資料を多聴できるように整備し、それら機器・機材の貸し出しも行っています。このような中、学生有志によって「English Hour 2014(楽しみながらできる簡単な英語のアクティビティ)」という催しがAV利用室で随時行われています。このような甲斐もあってか、「多読・多聴用資料」の貸出し数が増加するとともに、9月以降の入館者数は、昨年度の同時期に比べ、毎月1,000名以上増加しています。リニューアルしたAV利用室は小さな部屋ですが、学生が主体となって学修する場所になりました。

最後に、平成25年度下半期より図書館施設内に情報部門の職員が常駐しています。IT関係の質問が気軽にできる環境になりましたので、遠慮なく図書・情報課に立ち寄ってください。



情報検索コーナー 1



情報検索コーナー 2

学生相談室だより

学生相談室相談員 小田 佳子

イライラのもとをたどれば

—気付きたくない感情—

人間にはいろんな感情があります。うれしい、楽しい、好き、満足といった好ましい状況に起きてくるものだけではなく、腹立たしい、悲しい、嫌い、不満など嫌な状況で起きる感情もあります。不快な感情を味わうのは誰でも嫌ですが、感情に良いとか悪いというのはありません。

ある女性が、明るくて行動力がある友人と一緒にいると、いつもイライラする感じがして後で落ち込んでしまう、友人は悪い人ではないのにこのように感じる自分が嫌だと悩んでいました。

自分の中に生じたネガティブな気持ちというのは、誰でも抑え込んだり、避けたりしたいものです。しかし、過度に抑え込んでいると、対人関係の場では、素直な自己表現が出来なくて嫌味な口調になってしまったり、感情が爆発的に出てトラブルを引き起こしてしまったりすることもあります。また、混沌としたイライラ感、もやもや感、落ち込んだ気分にとらわれてしまうこともあります。

この女性は自分のイライラした感じについて、「この感じてなんだろう」と、もう少し注目してみることにしました。すると、自分には友人に対して悔しい、ねたましいという感情があることに気が付きました。さらに、自分は明るくて行動力がある性格にならなければと理想を求めすぎて、今の自分を否定的に見てしまっているように思えてきました。このように考えているうちに、今まではっきりしなかったものに少し見通しがついたようで、イライラしたり落ち込んだりすることは少なくなりました。

ネガティブな気持ちや考えは、暗いとか駄目だと言って、すぐにポジティブの方にもっていかこうとする人が多いです。確かにポジティブに切り変えることは大切なのですが、私たちはいつもがんばったり、前向きに考えるばかりとはいきません。ネガティブな気持ちは避けては通れないものなのです。ならば、それとしっかり向き合ってみようというわけです。

その後、その女性は、明るくて行動力のある性格にならなければならないという「思い込み」ではなく、そんな性格になりたいと理想をもちながらも、今の自分にできそうなことを探したり、試してみたりすることにしました。そして、友人に対しては「あなたのこ

んなところが素敵だと思う。少しお手本にさせてもらおうね」と素直な気持ちを表現してみることにしました。

自分の感情をしっかりとらえ、自分のマイナスの面も含めてありのままの自分を知り、受け止めることは、よりよく自分とつき合うための第一歩でもあるといえます。そしてこの一歩によって、他人とのつき合い方を見直すことや、自分自身が成長していくことの可能性が広がっていきます。

学生みなさんも、生活の中で「何かうまくいっていない感じ」、「イライラ感」、「もやもや感」が生じたら、一度その感じに焦点を当ててみてください。どんな感じ、感情なのか、言葉にしてみるのです。

自分の中にある「扱いにくい感じ」とつき合うには、まずは、自分のありのままの感情に気付くことからでしょう。お手伝いが必要なときには学生相談室を訪ねてください。

学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に3回、カウンセラー（専門の臨床心理士）が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。



若林暁子相談員
(火曜日担当)



小田佳子相談員
(木曜日担当)

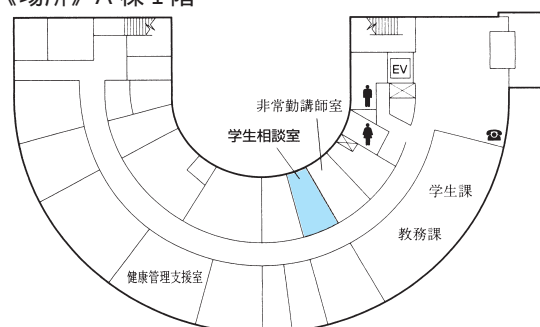


西田裕子相談員
(金曜日担当)

開室時間：毎週火・木曜日 12:00～16:00
毎週金曜日 14:00～18:00

TEL：(072)690-1077 (直通)
E-mail：counsel@gly.oups.ac.jp

《場所》A棟1階



総務課

■ 人 事

<大学関係>

名誉教授 (平成26年 4 月 1 日付)

土井 勝

掛見 正郎

松島 哲久

退 職 (平成26年 9 月30日付)

学 長 藤田 芳一

任 用 (平成27年 1 月 1 日付)

学 長 政田 幹夫 (任期 4 年)

併 任 (平成26年 8 月 1 日付)

防火・防災管理者 天野富美夫 (教授)

併 任 (平成26年10月 1 日付)

学長事務取扱 楠瀬 健昭 (教授)

併 任 (平成26年10月30日付)

研究科長事務取扱 天野富美夫 (教授)

併 任 (平成27年 1 月 1 日付)

研究科長 政田 幹夫 (学長)

併任を解く (平成26年 7 月31日付)

防火・防災管理者 楠瀬 健昭 (教授)

併任を解く (平成26年12月31日付)

学長事務取扱 楠瀬 健昭 (教授)

研究科長事務取扱 天野富美夫 (教授)

招へい教授 (平成26年 4 月 1 日付)

野口 正弘

招へい教授 (平成26年10月 1 日付)

松浦 成昭

招へい教授 (平成26年11月 1 日付)

芹川 忠夫

客員研究員 (平成26年 6 月 1 日付)

尾崎 和男

客員研究員 (平成26年 7 月 1 日付)

森 龍彦

客員研究員 (平成26年11月 1 日付)

芹川 忠夫

森本 茂文

<法人関係>

理事長就任 (平成26年 6 月24日付)

浜岡 純治 (再任)

常務理事就任 (平成26年 6 月24日付)

田部 信重 (再任)

■ 海外出張

村上 能庸 客員研究員 (生薬科学研究室)

出張期間: 平成26年 5 月13日 ~ 5 月19日

17th Annual Conference of the European Biosafety Association (ベルギー)

恩田 光子 准教授 (臨床実践薬学研究室)

出張期間: 平成26年 5 月31日 ~ 6 月 4 日

International Society For Pharmacoeconomics and Outcomes Reseach (カナダ)

庄司 雅紀 大学院生 (臨床実践薬学研究室)

出張期間: 平成26年 5 月31日 ~ 6 月 4 日

International Society For Pharmacoeconomics and Outcomes Reseach (カナダ)

田川 晃子 薬学部 6 年次生 (循環病態治療学研究室)

出張期間: 平成26年 6 月12日 ~ 6月20日

HYPERTENSION ATHENS 2014 (ギリシャ)

林 哲也 教授 (循環病態治療学研究室)

出張期間: 平成26年 6 月13日 ~ 6 月18日

ヨーロッパ高血圧学会 国際高血圧学会 (ギリシャ)

玉木 理衣 大学院生

(薬学専攻博士課程がん専門薬剤師養成コース)

出張期間: 平成26年 6 月15日 ~ 6 月21日

DRUG DISCOVERY & THERPY WORLD CONGRESS 2014 (アメリカ)

スミス 朋子 准教授 (言語文化学グループ)

出張期間: 平成26年 6 月18日 ~ 6 月23日

THE LANGUAGE OF MEDICINE:Science, Practice and Academia (イタリア)

春沢 信哉 教授 (有機薬化学研究室)

出張期間: 平成26年 6 月20日 ~ 6 月29日

研究打合せ及び15th Tetrahedron Symposium (イギリス)

大野 行弘 教授 (薬品作用解析学研究室)

出張期間: 平成26年 6 月21日 ~ 6 月28日

第29回国際神経精神薬理学会

(29th CINP Congress) (カナダ)

阪本 恭子 准教授 (環境医療学グループ)

出張期間: 平成26年 8月18日 ~ 9月1日

医療・生命倫理および科学研究費に関連する研究資料の収集と調査 (ドイツ)

平田 雅彦 講師 (生体機能診断学研究室)

出張期間: 平成26年 8月26日 ~ 9月2日

世界核医学会 (メキシコ)

林 哲也 教授 (循環病態治療学研究室)

出張期間: 平成26年 8月30日 ~ 9月4日

ESC Congress 2014 (スペイン)

野村 篤生 薬学部 6 年次生 (循環病態治療学研究室)

出張期間: 平成26年 8月30日 ~ 9月4日

ESC Congress 2014 (スペイン)

戸塚 裕一 教授 (製剤設計学研究室)

出張期間: 平成26年 9月15日 ~ 9月21日

ISIC-19 (フランス)

門田 和紀 講師 (製剤設計学研究室)

出張期間: 平成26年 9月15日 ~ 9月21日

ISIC-19 (フランス)

東 剛志 助手 (薬品分析化学研究室)

出張期間: 平成26年 9月22日 ~ 9月27日

International Water Association IWA World Water

Congress & Exhibition, Lisbon, Portugal 2014 (ポルトガル)

永井 純也 教授 (薬剤学研究室)

出張期間: 平成26年10月18日 ~ 10月25日

19th North American ISSX Meeting/29th JSSX Meeting (アメリカ)

大野 行弘 教授 (薬品作用解析学研究室)

出張期間: 平成26年10月31日 ~ 11月3日

2014 International Conference of Aging and Disease (中国)

東 剛志 助手 (薬品分析化学研究室)

出張期間: 平成26年11月18日 ~ 11月20日

BIT's 12th Annual Congress of International Drug Discovery Science & Technology: Shaping the Bright Future of Drug Discovery (中国)

戸塚 裕一 教授 (製剤設計学研究室)

出張期間: 平成26年11月24日 ~ 11月30日

The 28th EFFoST International Conference & 7th International Food Factory for the Future Conference (スウェーデン)

門田 和紀 講師 (製剤設計学研究室)

出張期間: 平成26年11月30日 ~ 12月3日

Pharmatech2014 (タイ)

■ 防災訓練

平成26年 9月17日(水)に高槻市北消防署員立会の下、防災訓練を実施しました。

12時 8 分に B 棟 2 階の研究室より地震に伴う火災が発生したとの想定で開始され、学生及び教員参加による消火・通報連絡・避難誘導・警備・救護の各訓練を実施しました。

全ての訓練終了後、避難集合場所において、同署員から注意喚起を含めた講評をいただきました。続いて、訓練用消火器を用いて消火活動の実演が行われました。



■ 第 1 回救急救命講習会

平成26年12月 8 日(月)に本学 D 棟 3 階セミナー室において、高槻市北消防署 (阿武野出張所) の協力の下、第 1 回救急救命講習会を実施しました。当日は23名の教職員、学生が参加し、3 時間の講習を受けました。最後に高槻市北消防署から「普通救命講習」の修了証が参加者全員に交付されました。



■ 戸塚教授が公益財団法人浦上食品・食文化振興財団「平成26年度研究助成」に採択

製剤設計学研究室・戸塚裕一教授が、公益財団法人浦上食品・食文化振興財団「平成26年度研究助成」に採択され、平成26年10月7日(火)に贈呈式がありました。

この研究助成金は、食品の生産・加工および安全性等に関する独創的な研究および先駆的取り組みを行う研究者を対象に助成されるもので、戸塚教授は「高吸収性クルクミン食品開発のための新規水溶性ナノ複合体の設計および安定化に関する研究」の研究テーマで採択され、この研究が特に食品加工技術に関する研究



課題として、今後の食品・食文化の発展に大きく貢献するとの評価を受けました。

■ 平成26年度実験動物慰霊祭

平成26年12月10日(水)12時20分より C105講義室において、実験動物慰霊祭を執り行いました。

慰霊祭は、教職員及び学生等、参列者全員が黙祷を行った後、楠瀬健昭学長事務取扱および大野行弘動物

関連研究施設運営委員長から挨拶と慰霊のことばが述べられ、続いて、大喜多 守動物関連研究施設管理責任者から、実験動物飼育状況について報告がありました。

最後に、教育研究のために尊い命を捧げてくれた実験動物の冥福を祈り、参列者全員が白菊を献花しました。

■ 大阪薬科大学研究シーズ集2014

大阪薬科大学では教育・研究を通じて得られた研究成果を広く社会に還元し、「社会貢献」を推進することを目的として「大阪薬科大学研究シーズ集2014」を平成26年7月に発刊いたしました。

シーズ集は平成25年から企画を始め、「概要」「応用例」「今後の発展性」「研究設備」「共同研究への期待」「関連特許・論文等」などに分けて研究内容やその成果をカラーの図表を多く用いるなどしてわかりやすく紹介しております。

シーズ集に掲載された研究成果は大学全体の研究成果の一部にすぎませんが、共同研究や受託研究等を通して、産学官連携活動を積極的に推進するためにまとめられております。

入手方法については、研究管理支援室までお問い合わせください。



■ 夕食（弁当）の提供について

平成26年12月1日(月)より本学食堂において、夕食用弁当（予約制）を提供しています（当日、午後2時までに食堂に予約し、午後4時～5時に食堂にて受け取り。価格は税込400円。日替わり1種類のみ）。

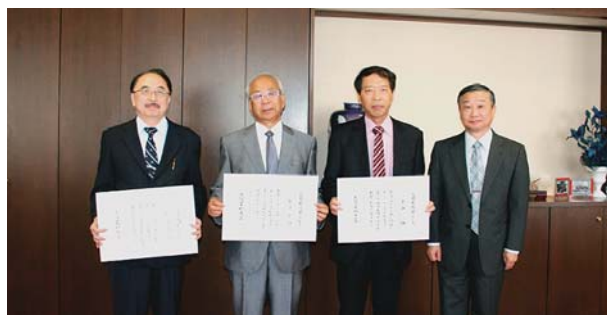
まずは、講義、試験（再試験は除く）の期間（土日祝日除く）のみの提供になります。平成26年12月1日(月)～平成27年1月19日(月)に試験的に実施し、利用

者数の状況を見た上で、来年度の実施について検討する予定です。



■ 大阪薬科大学名誉教授授与式を執り行いました

平成25年度末をもって本学を退職された土井勝元教授、掛見正郎元教授、松島哲久元教授に対して大阪薬科大学名誉教授の称号を授与（平成26年4月1日付）することが決定し、平成26年9月9日(火)に授与式を執り行いました。



■ 附属薬局健康講座を開催

附属薬局において、定期的に行っている患者様向けの健康講座を下記のとおり開催しました。

今後も患者様からの貴重なご意見を参考にしながらテーマを厳選し、講座の内容の充実を図る予定です。

《第18回》

日 時：平成26年7月5日(土) 13時30分

テーマ：「認知症～予防と治療、対応について～」

講 師：大阪精神医学研究所 新阿武山病院
大阪府認知症疾患医療センター

認知症サポート医 森本 一成 先生

《第19回》

日 時：平成26年12月6日(土) 13時30分

テーマ：「関節リウマチ治療の最前線」

講 師：高槻赤十字病院 整形外科部長

小田 幸作 先生

■ がんプロ第7回公開シンポジウムを開催

平成26年8月29日(金)13時より、学生ラウンジにおいて、文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業大阪薬科大学第7回公開シンポジウムを公益社団法人日本薬学会近畿支部、神戸薬科大学との共催で開催しました。

今回の公開シンポジウムは、「がんの在宅医療現場

では何が行われているか？ - 在宅生活を支える専門職の姿と薬剤師の活躍への期待 -」をテーマとし、講演に加えてキャンサーボードを開催しました。講師の先生方から在宅医療現場をご紹介いただき、その中で患者さんを中心にしたどのようなケアを行っているのか、薬剤師の活動はどのようなものなのか、そして今後の薬剤師の活躍に対する期待は何か等を考える良い機会となりました。



■ 国際交流基金助成事業

本学では、国際交流の推進を図り、本学における学術研究及び教育の活性化に資するために大阪薬科大学国際交流基金を設置しています。この基金を用い、次

の各種国際交流事業を助成することができます。

- (1) 本学学生の海外交流協定大学等への派遣事業
- (2) 海外交流協定大学等から受け入れた外国人留学生に対する奨学事業
- (3) 海外交流協定大学等からの外国人研究者等招へ

い事業

(4) その他国際交流に必要な事業

助成を受けるためには、事業年度毎の定められた期間に申請し、本学国際交流委員会の審議を受けなければなりません。審議により採択された場合に助成金を受けることができます。

本助成制度は、実施から5年が経過し、ゆっくりとではありますが学内に浸透してきており、学生自身が

企画する場合や自身での企画が困難な学生も制度利用のために多数相談に訪れています。

国際交流に興味を持ち、短期海外留学や海外医療研修を考えている学生は、本助成制度を利用してはいかがでしょうか。

今までに本助成制度により国際交流事業を行った学生等の報告書を本学ホームページに掲載しておりますので、確認してください。

・平成26年度国際交流基金助成事業採択者一覧 (H26.12 1次募集終了時点)

実施時期	氏名等 (実施時)	事業概要
H26年度	薬品作用解析学研究室 教授 大野行弘	国費外国人留学生受入 (ブラジル)
H26.7実施	薬科学専攻博士後期課程3年次生 森重 雄太	国際微生物学連合・学術会議発表 (カナダ) (International Union of Microbiological Societies Congress 2014)
H26.8実施	4年次生 葛村 愛弓	カナダ短期医療研修ツアー + 医療通訳入門コース
H26.8実施	2年次生 島田 麻里	イギリス短期語学留学

・平成25年度国際交流基金助成事業採択者一覧

実施時期	氏名等 (実施時)	事業概要
H25.8 実施	4年次生 山崎 隆未	カナダ短期医療研修ツアー
H25.8 実施	4年次生 北山 風太	オーストラリア短期語学留学
H25.8 実施	3年次生 野々垣 早利美	カナダ医療通訳サーティフィケーションプログラム
H26.3 実施	4年次生 曾我部 俊策	ヨーロッパ薬学研修旅行
H26.3 実施	4年次生 千田 安梨沙	ヨーロッパ薬学研修旅行
H26.3 実施	4年次生 柳迫 領仁	ヨーロッパ薬学研修旅行
H26.3 実施	3年次生 枅川 真由美	ヨーロッパ薬学研修旅行
H26.3 実施	3年次生 吉田 有希	ヨーロッパ薬学研修旅行
H26.3 実施	1年次生 毛尾 仁美	アメリカ短期語学留学

施設課

■ 学内環境整備について

現在、本学はA棟、D棟、大学会館に自動ドアを設置していますが、この度、学内のバリアフリー化をより一層推進し、車いす利用者もC棟にアクセスしやすいように、平成26年8月にC棟南側に自動ドアとスロープを設置しました。これにより、車いすの利用者だけではなく、学生の往来も容易になり、以前と比べ、利便性が向上しました。今後も順次、学内のバリアフリー化を進め、学内環境の整備を検討していく予定です。



キャリアサポート課

■ 学内推薦インターンシップ体験報告会について

- ・日時：平成26年11月22日(土) 9:30～12:00
- ・参加者数：35名

本年度の学内推薦インターンシップには、薬業関連企業22社（MR、医薬品卸、モニター、研究）、及び公的機関4団体の計26の企業や団体にご協力いただき、延べ54名の学生が参加しました。

このことについて、11月22日(土)に報告会を実施し、参加学生からインターンシップ先や体験した職種についての理解、並びにインターンシップを通じての新たな気づきや視点等について発表があり、活発な質疑応答が行われました。

この報告会によって、参加者は業界の動向や自分が体験した職種以外の業務内容についても理解を深める



ことができました。互いの体験を共有することが、幅広い視点から職業適性や将来像を考え、キャリアを構築する第一歩となりました。

■ 自己分析講座（応用編）について

- ・日時：平成26年12月2日(火) 16:30～18:00
- ・参加者数：105名

キャリアサポート課では就職活動を始める上で、自己分析を深めることが大切だと考え、例年この時期に自己分析講座を実施しています。

今年度は10月に、まず基礎編を実施しました。その内容を踏まえ、次のステップとして12月に応用編を実施しました。応用編は演習を中心とした実践型の自己分析講座です。受講後には各自で随時、自己分析を進めることができるようになることを目的としています。

当日の演習では、自分の「考え方」や「行動の特性」を理解することができるよう 過去の自分を振り返る

作業、現在の自分を見つめる作業、未来の自分を考える作業、客観的に自分を知る作業を行いました。



教務課

■ 学位授与

[学士]

学士（薬科学）

薬科学科 男子1名 女子1名 合計2名

(平成26年9月30日付)



学 生 課

■ 第68回関西薬学生バドミントン大会 男子新人戦優勝！

バドミントン部 1年次生 森川 翔太

今年の薬連は真夏の8月に名古屋で開催されました。大会は5日間に渡り、新人戦は最後の2日間でした。

私はラケット競技は未経験で大学に入ってからバドミントンを始めました。入部してからは、練習の際に多くの先輩からいろいろアドバイスをいただき少しずつ上達していきました。大会までは試験期間があったり、練習用のコートが限られていたりして、十分な練習時間が確保できませんでした。しかし、友達と自主練に積極的に参加するなど、練習時間確保のため時間を有効に使いました。

大会は初めて出場するのでとても緊張しましたが、一勝でも多くの試合を勝つつもりで試合に臨みました。2回戦では途中で負けそうになる場面もありましたが諦めずに粘り強さと集中力で勝ち進むことができました。準決勝と決勝は最終日に行われたので体力的には



とても厳しいものがありましたが、最後は気持ちで勝つという思いで試合に臨み、バドミントンを十分に楽しむことができました。結果、優勝することができてとても嬉しかったです。コートチェンジの度に的確なアドバイスを下さった先輩方、応援していただいたバドミントン部全員に感謝しています。

これからもバドミントンを思いっきり楽しみ頑張っていきたいと思います。

「関西薬連・全国薬連大会」結果（平成26年度）

◎関西薬連大会

部 名	団 体		個 人
硬 式 庭 球 部	男子	4 位	
	女子	優勝	
硬 式 野 球 部		優勝	
サ ッ カ ー 部		3 位	
柔 道 部	男子	3 位	男子無段の部優勝：松原佳紀 準優勝：若竹綾
	女子	優勝 準優勝	男子ダブルス／ベスト4：増田章秀、野田拓誠 ベスト8：江川英毅、前田太一
卓 球 部		10位	
バドミントン部	男子	11位	男子新人戦／優勝：森川翔太
	女子	10位	女子新人戦／準優勝：谷口菜優
バレーボール部	男子	—	
	女子	3 位	

◎全国薬連大会

部 名	団 体		個 人
剣 道 部	男子	予選敗退	
	女子	予選敗退	
ソフトテニス部	男子	準優勝	男子ダブルス／3位：梅本康平、飯田侑樹
	女子	3 位	女子ダブルス／準優勝：出利葉舞、辻本麻有
バスケットボール部	男子	予選敗退	
	女子	予選敗退	

注) ○内は学年

■ 人権講演会を開催しました

H26年度 人権委員長 教授 福永 理己郎

平成26年10月24日(金)の午後に、1年次生と本学職員を対象とした人権講演会を開催しました。本年度は「身近な人権問題」をテーマに取り上げ、DVD作品の上映と、外部講師によるご講演を企画しました。

DVD上映では、「家庭の中の人権：生まれ来る子へ」(東映教育映像部2013年、約25分)を鑑賞しました。初めての赤ちゃんの出産に近い若夫婦が夫の祖父母の家を訪ねるといった設定の元で、普通の家庭での会話を中心に、妊婦への社会の対応、イクメンの実態、身元調査、老いた親の介護、家庭内暴力、など

の問題がさりげなく扱われていました。「自分は人権問題とは関係ない」と思っていた学生にも、身近な所に“幸せになる権利”を侵害する場面が存在し得ることを気付かせる内容でした。

続いて、「人権って何? ~自尊感情を高めるために~」というタイトルで、高槻市人権まちづくり協会人権啓発指導員の野田忠司氏のご講演を頂きました。

野田先生は、高槻市の中学校で教師として長年お勤めされ、学生の学習意欲や人権意識の向上



奨 学 生 状 況

平成26年12月現在

1. 日本学生支援機構

区 分			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	大学院 (博士前期課程)	大学院 (博士後期課程)	大学院 (4年制課程)	合計	
第 一 種	人 数		47	57	49	43	41	38	3	2	3	283	
	月 額	自 宅	30,000円*又は54,000円						50,000円*	80,000円*			
		自宅外	30,000円*又は64,000円						又は 88,000円	又は 122,000円			
第 二 種	人 数		82	65	86	81	82	71	0	0	0	467	
	月 額 (薬学課程増額月額)		3万・5万・8万・10万・12万円から選択 (12万円を選択した場合は2万円の増額可)						5万・8万・10万・ 13万・15万円から選択				
合 計			129	122	135	124	123	109	3	2	3	750	

*印の金額は、平成21年度採用者から選択可

2. 本学独自の奨学金制度

名 称	月額(円)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	大学院	合計	給付・貸与
大阪薬科大学一般奨学金	30,000	19	16	7	9	5	3	3	62	給付
大阪薬科大学特別奨学金	50,000	11	12	12	4	3	1	0	43	貸与
大阪薬科大学育友会奨学金	40,000又は80,000	1	1	5	3	0	2	0	12	貸与
合 計		31	29	24	16	8	6	3	117	

3. その他の育英・奨学会 (本学を通して推薦している奨学金)

名 称	月額(円)	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	大学院	合計	給付・貸与
あしなが育英会	40,000	0	0	0	0	0	1	0	1	貸 与
(公財)小野奨学会	学 部 30,000 大学院 60,000	4	8	8	6	11	9	0	46	給 付
(公財)佐藤奨学会	25,000	0	2	0	0	0	0	0	2	給 付
公益信託鈴木万平記念薬学奨学基金	50,000	0	0	0	0	0	1	0	1	給 付
(公財)大東育英会	20,000	0	0	0	0	1	0	0	1	給 付
(公財)河内奨学財団	40,000	0	0	2	0	0	0	0	2	給 付
(公財)山口県ひとづくり財団	52,000	0	0	0	0	0	1	0	1	貸 与
福井県奨学金	61,000	0	0	1	0	0	0	0	1	貸 与
合 計		4	10	11	6	12	12	0	55	

に尽くしていらっしゃる方です。ご講演では、フィリピンのスラム街でのホームステイやイランのテヘラン日本人学校の校長として3年間を過ごされたご経験を踏まえて、日本の社会は子供の「自尊感情」が育ちにくくなっているという問題を提起され、どうすれば子供の自尊感情・人権意識を高めることができるのか、親しみやすい言葉で問い掛けられました。最後に、ご自身の子育て経験を交えて、自尊感情や人権意識を家

族の中で育てるように努めることの大切さを訴えかけられました。

多くの学生が熱心に耳を傾け、「人権」を身近な問題として意識できたことが、講演後のアンケートから伺われました。講演会で上映したDVDは図書館に置いてあり、また、野田先生のご講演内容は大阪薬科大学紀要に掲載される予定です。今回の講演会を機会に、人権問題に対する理解が深まればと願います。

■ 平成26年度父母懇談会

10月18日(土)から11月29日(土)にかけて、学外会場と本学の計5会場で、8回目の父母懇談会が開催されました。今年は約330名のご父母が参加されました。

各会場においては、大学から教務関係、学生生活関係、就職・進路関係について説明を行い、その後、質疑応答を行いました。本学会場ではアドバイザーとの面談も実施し、約90組のご父母が担当アドバイザー等と面談されました。



父母懇談会 大阪(梅田)会場

■ 献血にご協力を！

毎年5月と11月の年2回、大学構内において献血を実施していますが、献血者の人数が減少傾向にあります。

医学が進歩した現代においても、人間の生命を維持するために欠くことのできない血液は人工的に造ることはできません。現在の医療現場では必要とされる血液製剤の数が不足していますので、皆さんのご協力をお願いします。

献血者の推移

実施日	200cc	400cc	合 計
H26.11.13(木) (受付数)	7 (11)	36 (48)	43人 (59)
H26. 5. 8(木) (受付数)	8 (14)	55 (67)	63人 (81)
H25.11. 5(火) (受付数)	3 (4)	16 (26)	19人 (30)
H25. 5.30(木) (受付数)	11 (16)	24 (29)	35人 (45)
H25. 5.29(水) (受付数)	11 (17)	41 (53)	52人 (70)
H24.11.29(木) (受付数)	16 (26)	45 (69)	61人 (95)
H24.11.27(火) (受付数)	11 (22)	35 (53)	46人 (75)
H24. 5.29(火) (受付数)	15 (24)	51 (78)	66人 (102)
H23.11.22(火) (受付数)	18 (21)	52 (66)	70人 (87)

受付数は、受付時の検査で血液の比重不足等により献血できなかった人を含んだ人数です。

～献血をしてみよう～

今回献血に協力いただいた学生に、献血についての感想を聞いてみました。

♥ 今回、僕は初めて献血をしました。友達がよく献血をしているのは知っていたのですが、なかなか勇気が出ず、恐怖感がありましたが、いざやってみるとそんなことはなく30分もかからずに終わりました。献血をとおして一人でも多くの人の役に立てられたら幸いです。(秋葉健太)

♥ 献血という言葉を聞くと少し怖いイメージがあったのですが、いざやってみるとすぐ終わり全く怖くありませんでした。また機会があればやってみたいです。(藤井 恵)

♥ 僕の最寄駅でよく献血車が来ていて、時間があって用事がなければ献血をするようにしていますが、それでもあまり機会が合わないで、大学で献血ができるのはありがたいです。(阪口大地)

♥ 2回目の献血でしたが、友達も誘って多くの人で行きました。次も友達を誘って多くの人役に立つことができたら嬉しいです。(佐野 匠)

♥ はじめて献血をしました。簡単な手続きのあとすぐに献血をしてもらえて、思ったより早く済み。とてもいい経験ができました。また機会があれば献血したいです。

(照屋 亮)



入試課

■ オープンキャンパス2014報告

夏のオープンキャンパス2014 (8/2,3,24) は、悪天候にもかかわらず3日間で2,150名の受験生、ご父母にご参加いただきました。さらに秋のオープンキャンパス (10/4) も250名の参加があり、春 (3/22) 205名を含めると年5回の開催で2,605名の参加者数となりました。

キャンパスツアーは、D棟実習施設や図書館等を見学しながら、学生の「生の声」が聞けると受験生には

大変好評でした。また、「体験イベント (模擬実験)」は、イベント内容を充実させ定員を増やしたうえで1日2回開催しました。午前の部はすべて満席、午後の部もほぼ満席になりました。参加者からのアンケート結果では、「キャンパスや実習施設がきれい!」、「ランチがおいしかった!」と受験生、ご父母とも大変好評でした。最近のオープンキャンパスは、土、日曜日に開催しており、ご父母の皆様にも多数参加いただき、受験生と一緒に楽しんでもいただける大学のイベントとして定着しています。

○ 薬用植物園見学会



秋の新規イベント：谷口教授、芝野准教授、瀬川薬用植物園技術職員のご協力を得て開催し、約40名の参加がありました。

○ アンケート回収



参加者からのアンケートを回収し、貴重なご意見を今後のオープンキャンパス運営に活かしていきます。

○ 個別相談



6名の入試委員に相談員としてご協力いただき、受験生やご父母から入試概要、カリキュラム、進路・就職など幅広い質問がありました。



○ 在学生による個別相談

新規イベント：4名の6年次生にご協力いただきました。相談内容は、入試、受験勉強の方法、時間、学生生活、クラブ活動など多岐にわたり、約20名の相談者がありました。教職員には、ちょっと聞きにくい学生生活などの質問も、在学生には気軽に聞けると受験生やご父母から好評でした。

春のオープンキャンパスは平成27年3月21日(祝・土)に開催いたします。

～インターネット出願を始めました!～

本学は平成27年度入試から紙による出願を廃止し、インターネット出願に完全移行しました(指定校制推薦入試を除く)。

手元に願書がなくても、24時間いつでも出願登録ができ、入力情報が画面上でチェックできるため、記入もれや不備の心配がありません。併せて、入学検定料はコンビニ等でも納入できるようになりました。

紙の使用を大幅に削減することで環境保護に資するだけでなく、受験生にとっても、大変便利になりました。



図書・情報課

■ AV 利用室の利用状況について

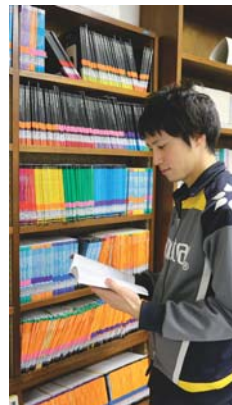
平成25年12月に図書館 4 階の AV 利用室を改修しました。

AV 利用室はこれまでは主に DVD の視聴のみに利用されていましたが、改修後はほぼ毎月 1 回開催される「English Hour」（学生の語学学習会）に利用されるなど利用方法が多様になりました。

AV 利用室では実践的な英語力をつけるため多読用 CD 付きリーダーズ（英語）を多数取り揃えています。この多読用図書に予約がかかるほど学生の人気を得ています。

また、DVD 視聴についてはディスプレイが大きく画像が鮮明になったことから授業の空き時間などを利用して来室する学生が従来より格段に増加しています。

一度、リニューアルされた AV 利用室を訪ねてみませんか。何か新しい「知の発見」があるかも知れませんよ！



新着図書情報（平成26年12月）

区 分	書 名	著 者・編 者
専門図書 ①	感染防止からみる微生物学	松本哲哉
// ②	臨床現場で実践する薬学研究のススメー研究デザインから論文作成・学会発表までー	澤田康文
// ③	採択される科研費申請ノウハウー審査からみた申請書のポイントー	岡田益男
// ④	薬づくりの真実ー臨床から投資までー	パートファイ・タマス
// ⑤	医薬品産業の過去・現在・未来ー故きを温ねて新しきを知るー	藤田芳司
// ⑥	薬がみえる VOL.1ー神経系の疾患と薬、循環器系の疾患と薬、腎・泌尿器系の疾患と薬ー	医療情報科学研究所
// ⑦	ワンランク上のジャーナルにアクセプトされる英語医学論文作成術ー最新の臨床研究から学ぼう！ー	田村房子
// ⑧	薬学情報サイエンスー薬剤師と社会、そのための経済学・疫学・統計・臨床研究ー	赤沢 学
// ⑨	薬学免疫学=Immunology for Pharmaceutical Sciences	荒田洋一郎
// ⑩	薬学数理統計	矢野義孝
// ⑪	Prof. 佐谷（さや）のバイオ論文はこう書く	佐谷秀行
// ⑫	ゼロから学ぶ医療統計教室	佐藤泰憲
// ⑬	食と薬の相互作用ー医療・福祉介護者も知っておきたいー	山本勝彦
// ⑭	医療系研究論文の読み方・まとめ方	対馬栄輝
// ⑮	くすりの害にあうということ	NPO 医薬ビジネスセンター
// ⑯	ホーキング、自らを語る	スティーヴン・ホーキング
// ⑰	認知症ケアと予防の基本	西谷達也
// ⑱	近藤先生、「がんは放置」で本当にいいんですか？	近藤 誠
一般図書 ①	物語のおわり	湊 かなえ
// ②	孤独の力	五木寛之
// ③	400文字の小宇宙ー「よみうり寸評」自選集1995～2014ー	永井 梓
// ④	一人っ子同盟	重松 清
// ⑤	1%の力	鎌田 実
// ⑥	それは秘密の	乃南アサ
// ⑦	分水嶺	笹本稜平
// ⑧	にじいろガーデン	小川 糸
// ⑨	「気遣い」のキホンー仕事も人間関係もうまくいくー	三上ナナエ
// ⑩	自分探しが止まらない	速水健朗
// ⑪	となりの芝生	伊集院 静
// ⑫	悩まないーあるがままで今を生きるー	矢作直樹
// ⑬	すべて真夜中の恋人たち	川上未映子
// ⑭	小澤征爾さんと、音楽について話をする	小澤征爾 村上春樹
// ⑮	傷つきやすい私たちが幸せになる方法ー石田衣良の恋愛総研ー	石田衣良
// ⑯	眉山	さだまさし
// ⑰	スコアが上がる新 TOEIC テスト本番模試600問	入江 泉
// ⑱	TOEIC テストー発逆転600点！	濱崎潤之輔

第3回

学術講演会

大阪薬科大学

in
東京

2015年2月22日(日)

14:00~17:00

尚、17:00より懇親会を致します。

場所 第一ホテル東京

東京都港区新橋 1-2-6 TEL 03-3501-4411

特別 講演

薬剤師に必要なフィジカル アセスメントの基礎知識と実践

大阪薬科大学循環病態治療学研究室

教授 林 哲也 先生

招待 講演

薬局と病院の連携から 医薬品適正使用・育薬を推進

東京大学大学院薬学系研究科医薬品情報学講座

教授 澤田 康文 先生

学術講演会参加費：無料

懇親会参加費：10,000円

定員：100名（先着順）

問合先：大阪薬科大学同窓会事務局

TEL/FAX 072-690-1099

E-mail: dosokai@gly.oups.ac.jp

（日本薬剤師研修センター受講シール1点申請中）

●主催 大阪薬科大学
大阪薬科大学同窓会

薬 用 植 物 の 紹 介

トウガラシ *Capsicum annuum* Linné (ナス科)薬用植物園長 教授 **谷口 雅彦**

トウガラシは、南アメリカ原産で熱帯では多年生であるが、日本などの温帯では一年生草本である。茎は高さ約60cmで直立して枝分かれが多い。葉は互生し、長柄を有し、卵形から狭卵形で先は尖っている。夏に白い花を単一又は2～3花を集生し、直生又は下向きに咲かせる。果実は液の少ない液果で、熟すと赤くなる。トウガラシには品種が多く、辛味性を有し香辛料として用いられる鷹の爪、八房、カイエンペッパー、ハラペーニョ等や、糖度が高く辛味性がほとんど無い野菜として用いられるピーマン、パプリカ、シシトウガラシ（一部辛味性を持つものもある）などが世界中で栽培されている。沖縄や伊豆諸島の島唐辛子（*Capsicum frutescens*）やハバネロ（*Capsicum chinense*）などは近縁種となる。

トウガラシは、コロンブスが南アメリカより胡椒 (pepper) の一種と間違えて持ち帰り、その後世界中に広まったので唐辛子を red pepper と呼ばれることになったと言われている。日本には諸説あるが、ポルトガル人宣教師によって伝えられたと考えられており、南蛮胡椒や南蛮辛子とも呼ばれている。従って唐辛子の「唐」は元来中国を示す言葉だが、ここでは外来であることを示している。生薬としては、辛味性の強い鷹の爪群の品種、八房群の品種が用いられており、番椒 (ばんしょう) とも呼ばれている。

生薬の含有成分の主なものは、辛味成分のカプサイシン、ジヒドロカプサイシン、カロチノイド色素のカプサンチン、 β -カロテン、ジテルペン配糖体のカプシアノサイド I~V 等である。日本薬局方では、総カプサイシン ((*E*)-カプサイシン及びジヒドロカプサイシン) 0.10% 以上を含むと規定されている。カプサイシンは果実内の種子がつく胎座で特に多く、次いで果皮に含まれている。しかし、種子には殆ど含まれていない。トウガラシチンキ又はカプサイシン溶液をヒトの皮膚、粘膜あるいはイヌの耳などに塗布すると、その局所は血管が拡張することにより充血を起こす。また、ヒト及び実験動物ないしは摘出臓器の実験で、トウガラシチンキ又はカプサイシンは消化管運動を



トウガラシ(花)
(武田薬品・京都薬用植物園)



トウガラシ(果実)
(写真撮影：芝野真喜雄准教授)

亢進し、少量で唾液および胃酸の分泌を促進するが、多量では逆に抑制する。トウガラシは辛味性健胃薬として用いるとともに、トウガラシチンキ、トウガラシ

エキシは軟膏や貼付薬に混合して皮膚刺激薬として筋肉痛、凍傷、育毛などに用いられている。1997年にイオンチャネル型のカプサイシン受容体TRPV1がクローニングされた。この受容体はカプサイシンと同様に熱（43℃以上）や酸（プロトン）などの侵害刺激によっても活性化され、痛みを引き起こすことが明らかにされている。またこの受容体は、カプサイシンの繰り返し刺激により細胞外カルシウムイオン依存的な脱感作により感覚神経の麻痺が起こり、辛みや痛みが感じにくくなる。このためカプサイシンは発痛物質でもあり鎮痛薬としても使用されている。

トウガラシの辛さを示す単位としてスコヴィル値 (SHU : Scoville heat units) がある。これは1912年に化学者のスコヴィルにより考案されたもので、トウガラシエキスを辛みを感じなくなるまで砂糖水で希釈し、その倍率をスコヴィル値としていた。近年ではカプサイシン量を HPLC により定量が行われているが、馴染みのあるスコヴィル値に換算して用いられている。代表的なスコヴィル値は以下の通りである。1600万 SHU : カプサイシン、ジヒドロカプサイシン、157万～220万 SHU : キャロライナ・リーパー (世界一辛いトウガラシ)、146万 SHU : トリニダード・スコープιον・ブッチ・テイラー、100万 SHU : ブート・ジョロキア、20万～53万 SHU : トウガラシスプレー、10万～35万 SHU : ハバネロ、4万～5万 SHU : 三鷹唐辛子 (八房群の品種)、2500～8000 SHU : ハラペーニョ、4000 SHU : タバスコ、100～500 SHU : パプリカ、0 SHU : ピーマン、シシトウガラシ。

